



鱒ヶ沢町

防災マップ

安心・安全なまちづくり



町民のみなさまへ

近年、全国各地で毎年のように自然災害が発生しており、豪雨による河川の氾濫や土砂災害、暴風による家屋損壊や倒木、停電など、その被害は甚大化しています。命や財産を守るためには、私たち一人ひとりが自然災害と向き合い、防災意識を高め、あらかじめ災害に備える“減災”の取組が重要です。

「鱒ヶ沢町防災マップ」は国や青森県が公表した中村川浸水想定区域図、津波浸水想定図、土砂災害特別警戒区域、土砂災害警戒区域、岩木山火山噴火影響範囲及び指定避難所などの情報を示した総合的な防災マップです。

鱒ヶ沢町は、雄大な日本海と山紫水明で豊かな自然に囲まれた町です。自然豊かで住みやすい町であるがゆえに、自然災害の怖さをしっかり認識する必要があります。「自分の命は自分で守る」「自分たちの地域は自分たちが守る」を常に心がけ、ご家庭や地域で日ごろからの備えとして本書を参考にいただき、いざという時にご活用していただければ幸いです。

令和3年3月
鱒ヶ沢町

索引

町民のみなさまへ・索引	1	マイ・タイムライン	11
自らの命、家族の命を守るために	2	災害時の感染症対策	12
風水害対策について	3	鱒ヶ沢町指定避難所・指定緊急避難場所一覧	13
洪水ハザード情報について	4	鱒ヶ沢町全体図	14
土砂ハザード情報について	5	ハザードマップ1~15	15~44
地震対策	6	鱒ヶ沢町中心部津波浸水想定図	45・46
津波対策	7	岩木山火山防災マップ	47・48
火山ハザード情報について	8	中村川浸水想定図	49
わが家の防災対策&チェック	9	わが家の「防災・緊急情報メモ」	50
非常時持出品の準備&チェック	10	防災情報収集方法、災害用伝言ダイヤル、防災関係機関連絡先	裏表紙

自らの命、家族の命を守るために!

適時適切な避難を行うために、家族や地域で確認しましょう。

ステップ

①

自宅や学校・職場には、どのような危険があるのか確認しましょう。

- ハザードマップを見て、土砂災害が起こりやすい場所はないか等、自宅や学校・職場等のよく立ち入る場所には、どのような危険があるのか確認しましょう。
- 避難場所（13ページ）を確認し、そこまでの経路や移動手段について計画しておきましょう。



ステップ

②

行政機関から提供される防災情報^{※1}について確認しましょう。

- 発令される避難情報等、国や都道府県から提供される防災気象情報には、以下のものがあります。^{※2}

警戒レベル	避難情報	避難行動	気象等情報	
			洪水浸水区域	土砂災害警戒区域
警戒レベル5	緊急安全確保 ^{※3}	既に災害が発生している状況です。命を守るための最善の行動をとりましょう。	氾濫発生情報等	大雨特別警報等
警戒レベル4 全員避難	避難指示 ^{※4}	速やかに避難場所へ避難しましょう。避難場所までの移動が危険と思われる場合は、近くの安全な場所への避難や、自宅内のより安全な場所に避難をしましょう。	氾濫危険情報等	土砂災害警戒情報等
警戒レベル3 高齢者等は避難	高齢者等避難	避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、乳幼児等)とその支援者は避難を開始しましょう。その他の人は、避難の準備を整えましょう。	氾濫警戒情報 洪水警報等	大雨警報等
警戒レベル2		避難に備え、防災マップ等により、自らの避難行動を確認しましょう。	氾濫注意情報 洪水注意報等	大雨注意報等
警戒レベル1		災害への心構えを高めましょう。	早期注意情報	

※1 情報の入手方法については、裏表紙をご確認ください。

※2 必ずしも、この順番で発令されるとは限らないので、ご注意ください。

※3 緊急安全確保は、災害が発生していることを把握した場合に可能な範囲で発令するものであり、必ず発令されるものではないことに留意してください。

※4 避難指示は、地域の状況に応じて避難を促す場合などに発令されるものであり、必ず発令されるものではないことに留意してください。

風水害対策について

大雨や強風はわたしたちに何度も大きな災害をもたらしています。
 undanから気象情報に十分注意し、避難の際もみんなで協力しましょう。

大雨情報をキャッチ！ こんなときのわが家の安全対策

まずは、
 確実な情報が大事
 その次に迅速な対応



特別警報・警報・注意報の発表基準

現象の種類	発表基準		
	特別警報	警報	注意報
大雨	数十年に一度の大雨が予想され、大災害が起こるおそれ著しく高まっている場合	大雨によって重大な浸水害や土砂災害が起こるおそれがあると予想される場合 記録的短時間大雨情報 1時間に雨量90mm ※大雨警報発表時、上記基準に達した場合に発表	大雨によって浸水害や土砂災害が起こるおそれがあると予想される場合
洪水	※全国約400の河川において指定河川洪水予報を発表しているため、特別警報の設定はありません。	大雨や融雪によって、増水や氾濫により重大な洪水害が発生するおそれがあると予想される場合 ※対象となる重大な洪水害として、河川の増水・氾濫及び堤防の損傷・決壊、並びにこれらによる重大な浸水害があげられる。	大雨や融雪によって、増水により洪水害が発生するおそれがあると予想される場合 ※対象となる洪水害として、河川の増水及び堤防の損傷、並びにこれらによる浸水害があげられる。

雨の強さと降り方

(1時間雨量:mm)

10mm以上~20mm未満	20mm以上~30mm未満	30mm以上~50mm未満	50mm以上~80mm未満	80mm以上~
雨の音で話し声がよく聞き取れない。	ワイパーを速くしても見づらい。側溝や下水、小さな川があふれる。	山崩れ、がけ崩れが起きやすくなり危険地帯では避難の準備が必要。	マンホールから水が噴出する。土石流が起こりやすい。多くの災害が発生する。	雨による大規模な災害の発生する恐れが強く、厳重な警戒が必要。

台風

日本には毎年多数の台風が接近あるいは上陸し、たびたび大きな被害をもたらします。
 台風の接近が予想される際は、台風情報に十分注意し、被害のないように備えることが必要です。

(風速単位:m/秒)

大きさ	風速15m/秒以上の半径	強さ	最大風速
大型(大きい)	500km以上800km未満	強い	33m/秒以上44m/秒未満
超大型(非常に大きい)	800km以上	非常に強い	44m/秒以上54m/秒未満
		猛烈な	54m/秒以上

集中豪雨

集中豪雨は、限られた地域において、突発的・短時間に集中して降る豪雨で、梅雨の終わりごろによく発生します。
 発生の予測は比較的困難で、中小河川の氾濫、土砂崩れ、がけ崩れなどによる大きな被害をもたらすことがありますので、気象情報に十分注意し、万全の対策をとることが必要です。

- ラジオやテレビなどの気象情報に注意する。
- 町や防災関係機関の広報をよく聞いておく。
- 停電に備え懐中電灯や携帯ラジオを用意する。
- 非常時持出品を準備しておく。
- 早く帰宅し、家族と連絡を取り、非常時に備える。
- 飲料水や食料を数日分確保しておく。
- 浸水に備えて家財道具は高い場所へ移動する。
- 危険な地域では、いつでも避難できるよう準備をする。

洪水ハザード情報について

水防法に基づき、洪水ハザード情報をマップに掲載しています。
以下の情報を参考に、洪水時における対応についてあらかじめ確認しておきましょう。

1 説明

- 「鱒ヶ沢町防災マップ」49頁に表示している中村川の浸水想定は、水防法の規定により指定された想定し得る最大規模の降雨による洪水浸水想定区域及び浸水した場合に想定される水深を表示したハザード情報です。
- この浸水想定区域などは、指定時点の河道の整備状況を勘案して、氾濫した場合の状況をシミュレーションにより予測したものです。
- この防災マップをご使用の際は、支川の氾濫、想定を超える降雨、内水による氾濫等を考慮していませんので、この浸水想定区域に指定されていない区域においても浸水が発生する場合や想定される水深が実際の浸水深と異なる場合がありますので十分注意しましょう。

●浸水ランクの目安 想定した大雨の規模(中村川流域の24時間雨量421mm)

5.0m 以上の区域	2階の屋根まで浸水する程度
3.0~5.0m 未満の区域	2階が浸水する程度
0.5~3.0m 未満の区域	1階が浸水する程度
0.5m 未満の区域	大人の膝までつかる程度



2 洪水情報の種類

洪水の危険性が高まった際に発表される情報

洪水注意報(気象庁)

- 洪水によって災害が発生するおそれがある場合、その旨を注意して行う。

洪水警報(気象庁)

- 洪水によって重大な災害が発生するおそれがある場合、その旨を警告して行う。

水位周知を行う河川

- 中村川については、避難判断水位、氾濫危険水位が設定されています。これらの水位に達した場合、知事は関係市町村やマスコミを通じてお知らせします。

3 避難時の注意点

①安全で動きやすい服装を

- ・ヘルメットやずきん等で頭を保護する。
 - ・裸足で避難しない。脱げにくい運動靴で避難する。
- ※長靴は水が溜まると動きにくくなるのではありません!

②足元に注意

- ・水の深さに注意する。
- ・水があふれたときは、マンホールや側溝、石などが危険。杖や長い棒で進行方向を確認しながら歩くようにしましょう。

③隣近所で声を掛けあって避難

- ・単独行動はしない。
- ・はぐれないようロープで互いの体を結んで流されないようにしましょう。

④要配慮者の安全確保

- ・病人や高齢者などは背負って避難する。
- ・子供は大人が手をつないで避難させる。その際、浮き袋を付けるようにしましょう。

土砂ハザード情報について

土砂災害警戒情報が発表されていなくても、ふだんと異なる状況「土砂災害の前兆」に気付いた場合には、(町総務課 電話 72-2111(代) へ連絡するとともに、直ちに周りの人と安全な場所へ避難してください。日ごろから危険箇所・避難場所、避難経路を確認しておくことも重要です。

土砂災害の種類

がけ崩れ

地中にしみ込んだ水分が土の抵抗力を弱め、雨や地震などの影響によって急激に斜面が崩れ落ちることをいいます。がけ崩れは突然起きるため、人家の近くで起きると逃げ遅れる人も多く、被害者の割合も高くなっています。



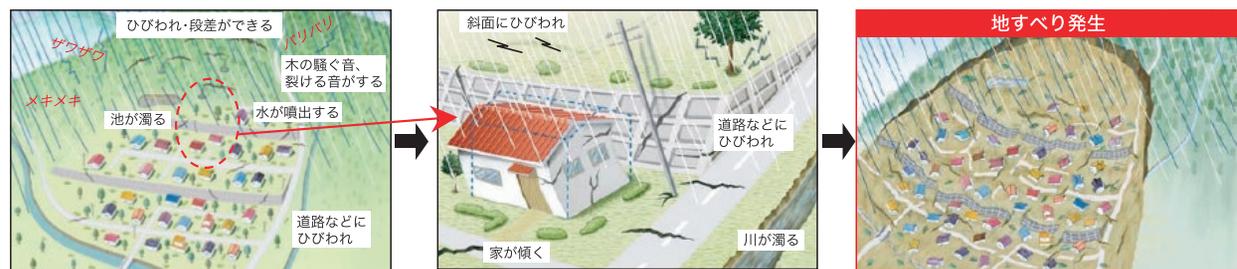
土石流

山腹・川底の石や土砂が長雨や集中豪雨などによって一気に下流へと押し流されることをいいます。その流れの速さは規模によって異なりますが、時速20~40kmという速度で一瞬のうちに人家や畑などを壊滅させてしまいます。



地すべり

斜面の一部あるいは全部が、地下水の影響と重力によってゆっくりと斜面下方に移動する現象のことをいいます。一般的に移動土塊量が大きいため、甚大な被害を及ぼします。また一旦動き出すと、これを完全に停止させることは非常に困難です。



※上記は一般的な前兆現象です。すべての場合において必ず起きるというものではありません。ふだんと違い、少しでも身に危険を感じたら避難するようにしましょう。

土砂災害警戒情報について

●土砂災害警戒情報とは

大雨による土砂災害発生が高まった時に、町が防災活動や住民等への避難勧告等の災害応急対応を適時適切に行えるように支援すること、また住民の自主避難判断に役立てることを目的として、県と青森地方気象台が共同し作成・発表する情報です。

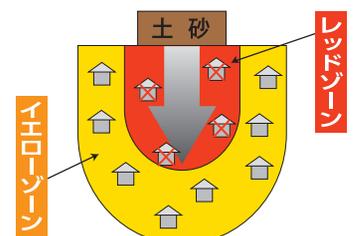
●土砂災害警戒情報の発表

県等が発表する土砂災害警戒情報を受け、町は、気象状況、前兆現象、青森県土砂災害危険箇所図(県の補足情報)や土砂災害警戒判定メッシュ情報(補足情報)の危険度指数等も併せて総合的に判断し、住民への避難情報等を提供します。また、住民への情報伝達は、防災行政無線や緊急速報メール(エリアメール)等を活用し、速やかに伝達します。

危険箇所内の重要性の高い箇所について

土砂災害防止法に基づき、青森県が計画的に基礎調査を実施し、危険箇所内の重要性の高い箇所について、「土砂災害特別警戒区域」と「土砂災害警戒区域」の指定が行われています。

土砂災害 特別警戒区域(レッドゾーン)	建築物に損壊が生じ、住民に著しい危害が生じるおそれがある区域
土砂災害 警戒区域(イエローゾーン)	土砂災害のおそれがある区域



地震対策 地震発生!そんなときどうする

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生

1~2分

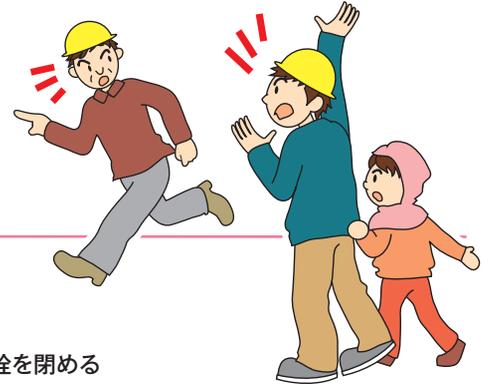
最初の大きな揺れは約1分間

- まず、身を守る安全確保 (手近な座布団などで頭を保護)
- すぐに火を消せるときは火を消す
- 大きな揺れの場合は、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所に一時避難する



揺れがおさまったら

- 火元を確認 火が出たら、落ち着いて初期消火
- 家族の安全を確認 倒れた家具の下敷きになっていないかを確認
- 靴をはく 家の中はガラスの破片が散乱。靴や厚手のスリッパをはく
- 非常時持出品を準備する

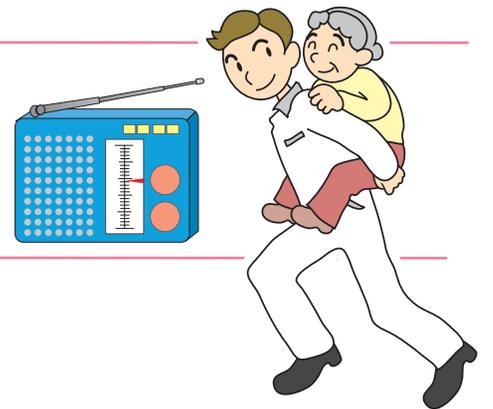


みんなの無事を確認 火災の発生を防ぐ

- | | | |
|-------------|------------------------------------|------------------------|
| ●隣近所に声をかけよう | ●要配慮者の安全確保 | ●隣近所で助け合う |
| | ●行方不明者はいないか | ●ケガ人はいないか |
| ●出火防止 初期消火 | ●漏電・ガス漏れに注意 電気のブレーカーを下ろす・ガスの元栓を閉める | |
| | ●消火器を使う | ●バケツリレー 風呂の水はため置きをしておく |

ラジオなどで正しい情報を

- 大声で知らせる ●災害・被害情報の収集
- 余震に注意する ●避難時に車は極力使用しない
- 電話は緊急連絡を優先する



協力して消火活動、救出・救護活動を

- 水、食料は蓄えているものでまかなう 3日間の飲料水と食料の備蓄をしておく
- 救出・救護活動 ●無理な行動はやめよう
- 助け合いの心が大切 ●壊れた家に入らない

5分
10分
数時間
3日

屋内にいた場合

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の処置も忘れずに)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要配慮者の安全を確保する。
- 裸足で歩き回らない(ガラスの破片などでケガをする)。

デパート・スーパー

- カバンなどで頭を保護し、ショーウィンドウやショーケースなどから離れる。柱や壁ぎわに身を寄せ、係員の指示を聞き、落ち着いた行動をとる。



集合住宅

- ドアや窓を開けて避難口を確保する。
- 避難にエレベーターは絶対に使わない。炎と煙に巻き込まれないように階段を使って避難する。

劇場・ホール

- カバンなどで頭を保護し、座席の間に身を隠し、係員の指示に従う。あわてずに冷静な行動をとる。



屋外にいた場合

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から頭をカバンなどで保護して、空き地や公園などに避難する。
- 近くに空き地などが無いときは、周囲の状況を冷静に判断して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- ブロック塀や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や垂れ下がった電線に近づかない。



車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、徐々にスピードを落とし、緊急車両等の通行スペースを確保し、道路の左側に止め、エンジンを切る。
- 揺れがおさまるまで冷静に周囲の状況を確認して、カーラジオで情報を収集する。
- 避難が必要なときは、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車検証などの貴重品を忘れずに持ち出し、徒歩で避難する。

電車などの車内

- つり革や手すりに両手でしっかりつかまる。
- 途中で止まっても、非常コックを開けて勝手に車外へ出たり、窓から飛び降りたりしない。
- 乗務員の指示に従って落ち着いた行動をとる。



津波対策

津波から命を守るためには、「強い揺れ、弱くてもゆっくりとした長い揺れを感じたら」…すぐに避難!! 「揺れが無くても津波警報を見聞きしたら」…すぐに避難!!



津波警報・注意報

津波による災害の発生が予想される場合には、地震発生後、約3分で大津波警報、津波警報または津波注意報を発表します。その後「予想される津波の高さ」、「津波の到達予想時刻」等の情報を発表します。

マグニチュード8を超えるような巨大地震の場合

「巨大」という言葉を使った大津波警報で、非常事態であることを伝えます

- 巨大地震**の場合は、正しい地震の規模をすぐには把握できないため、その海域における**最大級の津波を想定して**、大津波警報や津波警報を発表します。これにより、津波の高さを小さく予想することを防ぎます。
- このとき、最初の津波警報では、予想される津波の高さを、「**巨大**」、「**高い**」という言葉で発表して**非常事態**であることを伝えます。



「巨大」という言葉を見たり聞いたりしたら、東日本大震災クラスの津波が来ると思って、ただちにより高い場所に避難しましょう!

正確な地震の規模が分かった場合

予想される津波の高さを、1m、3m、5m、10m、10m超の5段階で発表します



「津波の高さ」は津波がない場合の海面からの高さです。津波が陸上で崖などを駆け上った高さは、津波の高さの何倍にも達することがあります。

津波に関する情報

津波警報の発表後、沖合や沿岸の観測点で観測した津波の高さや到達時刻を発表します。

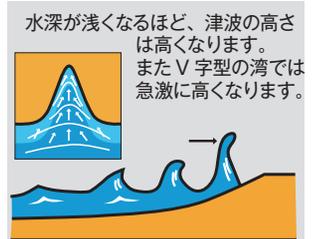
- 高い津波が来る前は、津波の高さを「観測中」として発表します。
- 沖合で観測された津波の情報をいち早く伝えます。

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

	予想される津波の高さ		とるべき行動	想定される被害
	数値での発表 (発表基準)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報	10m超 (10m<高さ)	巨大	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や避難ビルなど 安全な場所へ避難 してください。津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
	10m (5m<高さ≤10m)			
	5m (3m<高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<高さ≤3m)	高い	ここなら安心と思わず、 より高い場所を目指して避難しましょう!	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	1m (20cm≤高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は、ただちに海から上がって、 海岸から離れ てください。津波注意報が解除されるまで海に入ったり海岸に近付いたりしないでください。	海の中では人は速い流れに巻き込まれる。養殖いかだが流失し小型船舶が転覆する。

※津波警報等の発表時には、各区分の**高い方の値**を、予想される津波の高さとして発表します。

(※気象庁ホームページより大部分を抜粋)



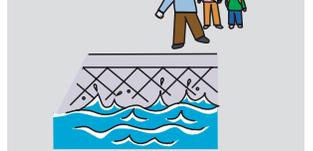
陸上に遡上した津波も早いので、津波を見てからでは逃げられません。



津波は繰り返し襲ってきます。必ずしも第一波が最大とは限りません。少なくとも津波警報が解除されるまで警戒が必要です。



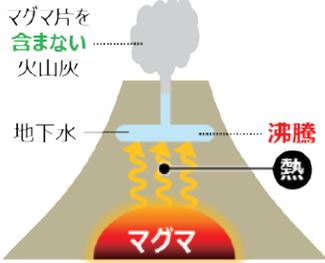
津波注意報でも、海辺や川べりには近づかないようにしましょう。



火山ハザード情報について

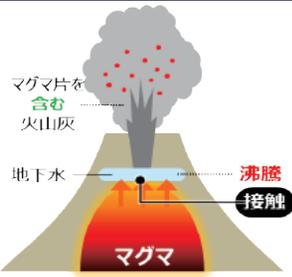
【火山の噴火の種類】

水蒸気噴火



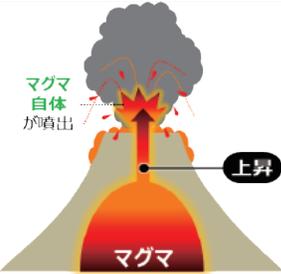
地表近くにある地下水がマグマからの熱で温められて水蒸気となり、その圧力で一気に爆発する現象です。

マグマ水蒸気噴火



上昇してきたマグマが地下水にふれて水蒸気とともに噴出する現象です。

マグマ噴火



地下から上昇してきたマグマ自体が地表に噴き出す現象です。

【噴火により起こる現象】

大きな噴石

爆発的な噴火によって火口から吹き飛ばされる直径約50cm以上の大きな岩石は、風の影響を受けずに火口から弾道を描いて短時間で落下し、建物屋根を打ち破るほどの破壊力を持っています。

火砕流・火砕サージ

高温の火山灰や岩塊、空気や水蒸気为一体となって急速に山体を流下する現象を火砕流といいます。中でもガス成分が多く、土石含有率の低い高度かつ希薄な流れを火砕サージと呼びます。破壊力が大きく極めて恐ろしい火山現象です。

降下火砕物

噴火による直径2mm以上の固形物を小さな噴石(火山れき)、直径2mm以下のものを火山灰といい、総称して、降下火砕物といいます。粒径が小さいほど遠くまで風に流され降下し、社会生活に深刻な影響を及ぼすことがあります。

溶岩流・溶岩ドーム

噴出したマグマが流下・定着する現象を溶岩流といいます。そのうち、マグマが火口上に盛り上がったものを溶岩ドームと呼びます。溶岩ドームが崩壊すると、火砕流が発生することがあります。

降灰後の土石流

火山噴火により噴出された岩石や火山灰が堆積しているところに大雨が降ると土石流や泥流が発生しやすくなります。これらの土石流や泥流は、高速で斜面を流れ下り、下流に大きな被害をもたらします。

融雪型火山泥流

積雪期の噴火に伴う火砕流等の熱によって斜面の雪が融かされ大量の水が発生し、周辺の土砂や岩石を巻き込みながら高速で流下する現象です。流下速度は時速60kmを超えることもあり、大規模な災害を引き起こしやすい火山現象です。

岩木山噴火時の避難所リスト

※印は、融雪型火山泥流の発生が予想される場合に避難が必要な地区です。
▲印は、一部が避難対象です

避難所	避難対象地域	避難所	主な避難経路
中村地区	長平町	①(旧)建石小学校	長平町森田線
	第二松代	②西海小学校	弘前岳髭ヶ沢線
	松代町		}
	白沢		}
	一本杉	③赤石公民館	国道101号
	除木▲※		弘前岳髭ヶ沢線
	長間瀬▲※		}
	浜横沢町▲※		}
	大宮▲※		}
	間木▲※	}	松代町陸奥赤石停車場線
中下▲※	④中村公民館	弘前岳髭ヶ沢線	
中村町▲※		}	
舞戸地区	館※	⑤髭ヶ沢中学校	国道101号
	岩谷▲※		
	林町※		
	舞戸東町▲※		
	宮浜※		
	高森※	⑥髭ヶ沢中学校第2体育館	弘前岳髭ヶ沢線
	舞戸本町※		
	新田※		
	坂本一※	②西海小学校	弘前岳髭ヶ沢線
	坂本二※		
髭ヶ沢地区	七ツ石町※	②西海小学校	弘前岳髭ヶ沢線
	田中町※		
鳴沢地区	川尻▲※	⑦(旧)鳴沢小学校	弘前岳髭ヶ沢線
	湯舟町▲※		
	小屋敷町▲※		
	南浮田町▲※		
	北浮田町▲※		
	保木原▲※		
	山田野▲※		
	鳴沢駅前▲※		

岩木山の噴火警戒レベル

平成28(2016)年7月運用開始

種別	名称	対象範囲	レベル(1-5)	火山活動の状況	住民等の行動及び登山者・入山者等への対応	想定される現象等
特別警報	噴火警報(居住地域)	居住地域及びそれより火口側	5(避難)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生、あるいは切迫している状態にある。	危険な居住地域からの避難等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージが発生、あるいは切迫している。 ●噴火の規模や位置が特定できない場合に、融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージの可能性が有る。 過去事例 事例なし
			4(避難準備)	居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生すると予想される(可能性が高まっている)。	警戒が必要な居住地域での避難準備等が必要。要配慮者及び特定地域の避難等が必要。	●融雪型火山泥流または火砕流・火砕サージに伴う噴火が予想される。 過去事例 事例なし
警報	噴火警報(火口周辺)	火口から居住地域近くまで	3(入山規制)	居住地域の近くまで重大な影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活、火口から居住地域近くまでの範囲への立入規制等。 状況に応じて要配慮者の避難準備、特定地域の避難等が必要。	●マグマ噴火の発生が予想される。 ●融雪型火山泥流及び火砕流・火砕サージが予想されない噴火の発生。 過去事例 1600年の噴火：噴石、火砕流、泥流 1618年の噴火：降灰 1782年冬～83年春の噴火：噴煙、噴石、火口列生成 1845年の噴火：噴煙・硫黄湧出 1863年の噴火：噴石
			2(火口周辺規制)	火口周辺に影響を及ぼす(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)噴火が発生、あるいは発生すると予想される。	住民は通常の生活、火口周辺への立入規制等。 状況に応じて特定地域の避難準備等が必要。	●水蒸気噴火の発生が予想される。 過去事例 1978年の活動：赤倉沢で噴気活発化
予報	噴火予報	火口内等	1(活火山であることに留意)	火山活動は静穏。火山活動の状態によって、火口内で火山灰の噴出等が見られる(この範囲に入った場合には生命に危険が及ぶ)。	状況に応じて火口内への立入規制等。	●火口内での少量の噴気・火山ガス等の発生。

※特定地域とは、警戒範囲に隣接している弘前市常盤野町会を指す。噴石、火砕流・火砕サージ、融雪型火山泥流で避難道路などが通行不能となるおそれがある区域では、早期避難等が必要。
※火口とは、岩木山火山噴火緊急減災対策砂防計画で想定された火口をいう。

令和2年8月1日時点の警戒レベルは1です

わが家の防災対策&チェック

家の中の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

1

□ 家の中に逃げ場としての安全な空間をつくる

部屋がいくつもある場合は、人の出入りが少ない部屋に家具をまとめて置く。無理な場合は、少しでも安全なスペースができるよう配置換えする。



3

□ 家具の転倒を防ぐ

家具と壁や柱の間に遊びがあると倒れやすい。家具の下に小さな板などを差し込んで、壁や柱によりかかるように固定する。また、金具や固定器具を使って転倒防止策を万全に。



2

□ 安全に避難するため、出入口や通路にものを置かない

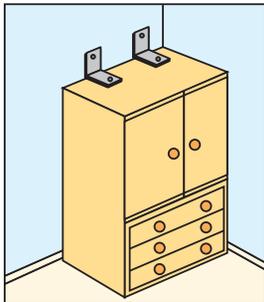
玄関などの出入口までの通路に、家具など倒れやすいものを置かない。また、玄関にいろいろなものを置くと、いざというときに、出入口をふさいでしまうことも。



家具の転倒、落下を防ぐポイント

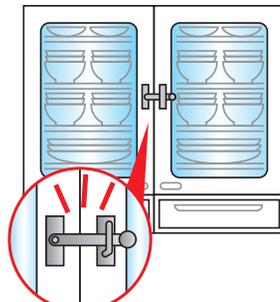
タンス・本棚

L字金具や支え棒などで固定する。二段重ねの場合はつなぎ目を金具でしっかり連結しておく。



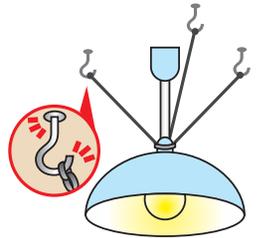
食器棚

L字金具などで固定し、棚板には滑りにくい材質のシートやふきんなどを敷く。重い食器は下の方に置く。扉が開かないように止め金具をつける。



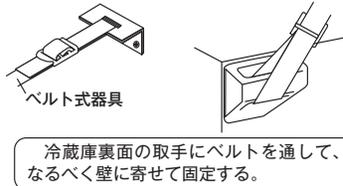
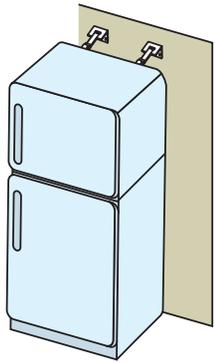
照明

チェーンと金具を使って数箇所止める。



冷蔵庫

転倒防止用ベルトで固定します。



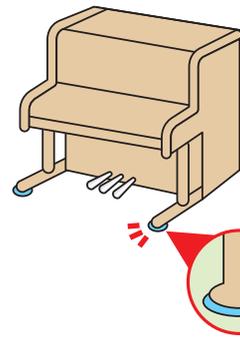
テレビ

できるだけ低い位置に固定して置く(家具の上など、高い位置はさける)。



ピアノ

転倒防止専用金具などで固定する。脚には、すべり止めをつける。



家の周囲の安全対策

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

□ 屋根

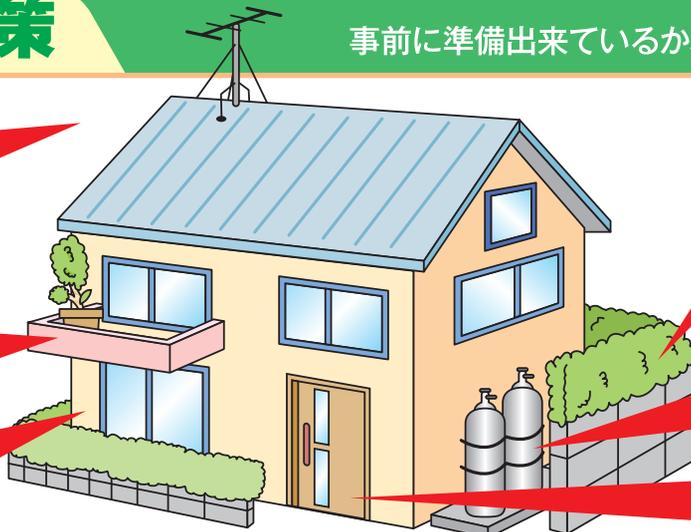
不安定な屋根のアンテナや、屋根瓦は補強しておく。

□ ベランダ

植木鉢などの整理整頓を。落ちる危険がある場所には何も置かない。

□ 窓ガラス

飛散防止フィルムをはる。



□ ブロック塀・門柱

土中にしっかりと基礎部分がないもの、鉄筋が入っていないものは危険なので補強する。ひび割れや鉄筋のさびも修理する。

□ プロパンガス

ボンベを鎖で固定しておく。

□ 非常口の確保

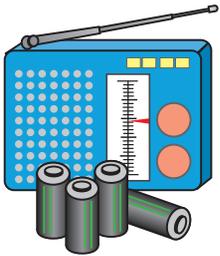
非常時持出品の準備&チェック

いざというときすぐに持ち出せるように、日ごろから準備・点検しておきましょう。

非常時持出品(例)

事前に準備出来ているか、チェック✓しましょう。

携帯ラジオ



- ラジオ
- 乾電池(多めに用意)

救急医療品



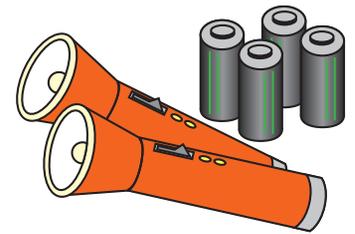
- 常備薬
- 絆創膏
- 傷薬
- 包帯
- 風邪薬
- 胃腸薬
- 消毒薬
- マスク・体温計

貴重品



- 現金
- ハンコ
- 健康保険証
- 預貯金通帳
- 運転免許証
- 権利証書

懐中電灯



- 懐中電灯(出来れば一人にひとつ)
- 電池(多めに用意)

非常食品等

- 非常用食品
- ミネラルウォーター
- 離乳食
- 粉ミルク
- 液体ミルク



その他

- 衣類(下着・上着など)
- 生理用品
- ポリ袋
- 紙皿・紙コップ
- 保温シート
- ウェットティッシュ
- ヘルメット・防災ずきん
- 防災マップ(本書)
- タオル
- 紙おむつ
- 万能ナイフ・ハサミ
- マスク・軍手
- 雨具(レインコートなど)
- ライター・マッチ
- ラップフィルム・アルミホイル(止血や食器にかぶせて使う)

非常時用備蓄品(例)

災害復旧までの数日間(一週間)を生活できるようにチェック✓しましょう。

飲料水



- 飲料水としてペットボトルや缶入りのミネラルウォーター(1人1日3リットルを目安に)又は貯水した防災タンクなど

非常食品



- お米(缶詰・レトルト・アルファ米も便利)
- 缶詰・レトルト食品
- 梅干し・調味料など
- ドライフーズ・チョコレート・アメ(菓子類など)

燃料



- 卓上コンロ
- ガスボンベ
- 固形燃料

その他

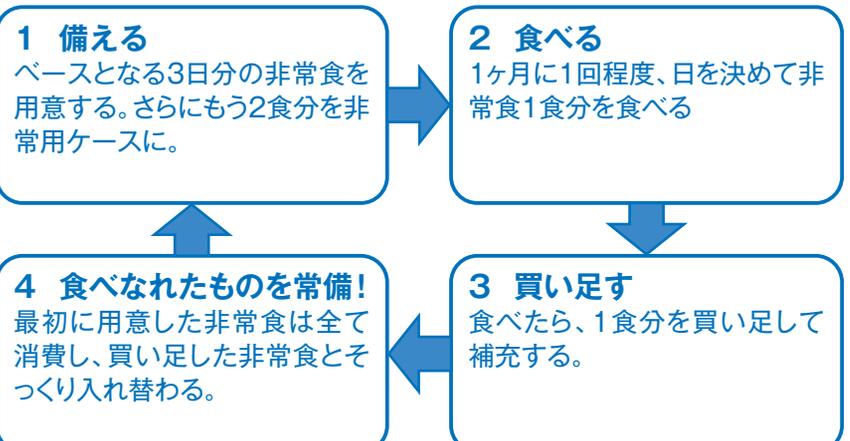


- 生活用水(風呂・洗濯機などに貯水)
- 毛布・寝袋・洗面用具・ドライシャンプーなど
- 調理器具(なべ・やかんなど)
- バケツ・各種アウトドア用品など
- トイレットペーパー

ローリングストック法とは

- ・「備蓄食料」と問われると、大部分の人が「賞味期限の長い食料を大量に買って置く」と思いがち。
- ・間違いではないが、こんな失敗は？
 - 賞味期限が知らないうちに過ぎてしまった。
 - 賞味期限が近いので、続けて備蓄品を食べた。

その名のとおり、食べながら(ローリング)、備蓄(ストック)する方法。



マイ・タイムライン

避難行動判定フロー

あなたがとるべき避難行動は？

必ず取り組みましょう

ハザードマップで自分の家がある地区(住所)に危険区域があるか確認しましょう。

※ハザードマップは浸水や土砂災害、岩木山噴火による被害が発生するおそれの高い区域を着色した地図です。着色されていないところでも災害が起こる可能性があります。

家がある地区(住所)に「土砂災害警戒区域」・「洪水浸水想定区域」・「岩木山噴火の影響」のいずれかの色が塗られていますか？

「洪水」・「土砂災害」・「岩木山噴火」について原則として避難の必要はありませんが、地図を確認し、周り比べて低い土地(過去の洪水での浸水範囲)や崖のそばなどにお住まいの方は、必要に応じて避難行動をとってください。

はい

災害の危険があるので、原則として※、自宅の外に避難が必要です。

例外

岩木山噴火については立退き避難が必要です。

※浸水の危険があっても、

①浸水する深さよりも高いところにいる
②浸水しても水が引くまで我慢できる、水・食糧などの備えが十分にある場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

※土砂災害の危険があっても、十分堅牢な建物の上層階に住んでいる場合は自宅に留まり安全確保をすることも可能です。

はい

ご自身または一緒に避難する方は避難に時間がかかりますか？

いいえ

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 3 が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

(岩木山の場合は噴火警戒レベル4)

いいえ

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 3 が出たら、町が開設している指定緊急避難場所に避難しましょう

安全な場所に住んでいて身を寄せられる親戚や知人はいますか？

はい

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 4 が出たら、安全な親戚や知人宅に避難しましょう(日頃から相談しておきましょう)

(岩木山の場合は噴火警戒レベル5)

いいえ

洪水や土砂災害に関する警戒レベル 4 が出たら、町が開設している指定緊急避難場所に避難しましょう

※避難する場合には 12 頁の「災害時の感染症対策」をふまえて避難しましょう。

災害時の感染症対策

「自らの命は自らが守る」意識を持ち、適切な避難行動をとりましょう

新型コロナウイルス感染症等が収束しない中でも、
災害時には、**危険な場所にいる人は
避難することが原則**です。

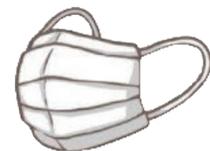
知っておくべきポイント

- 避難とは[難]を[避]けること。
安全な場所にいる人まで避難場所に行く
必要はありません。
- 避難先は、小中学校・公共施設だけではありません。
安全な親戚・知人宅に避難することも考えてみましょう。
- 避難所に避難する場合は、マスク・消毒液・体温計を
できるだけ自ら携行して下さい。
- 豪雨時の屋外の移動は車も含め危険です。
やむをえず車中泊をする場合は、浸水しないよう周囲の
状況等を十分確認して下さい。



新型コロナウイルス等の対策で非常持ちだし袋に加えたいもの

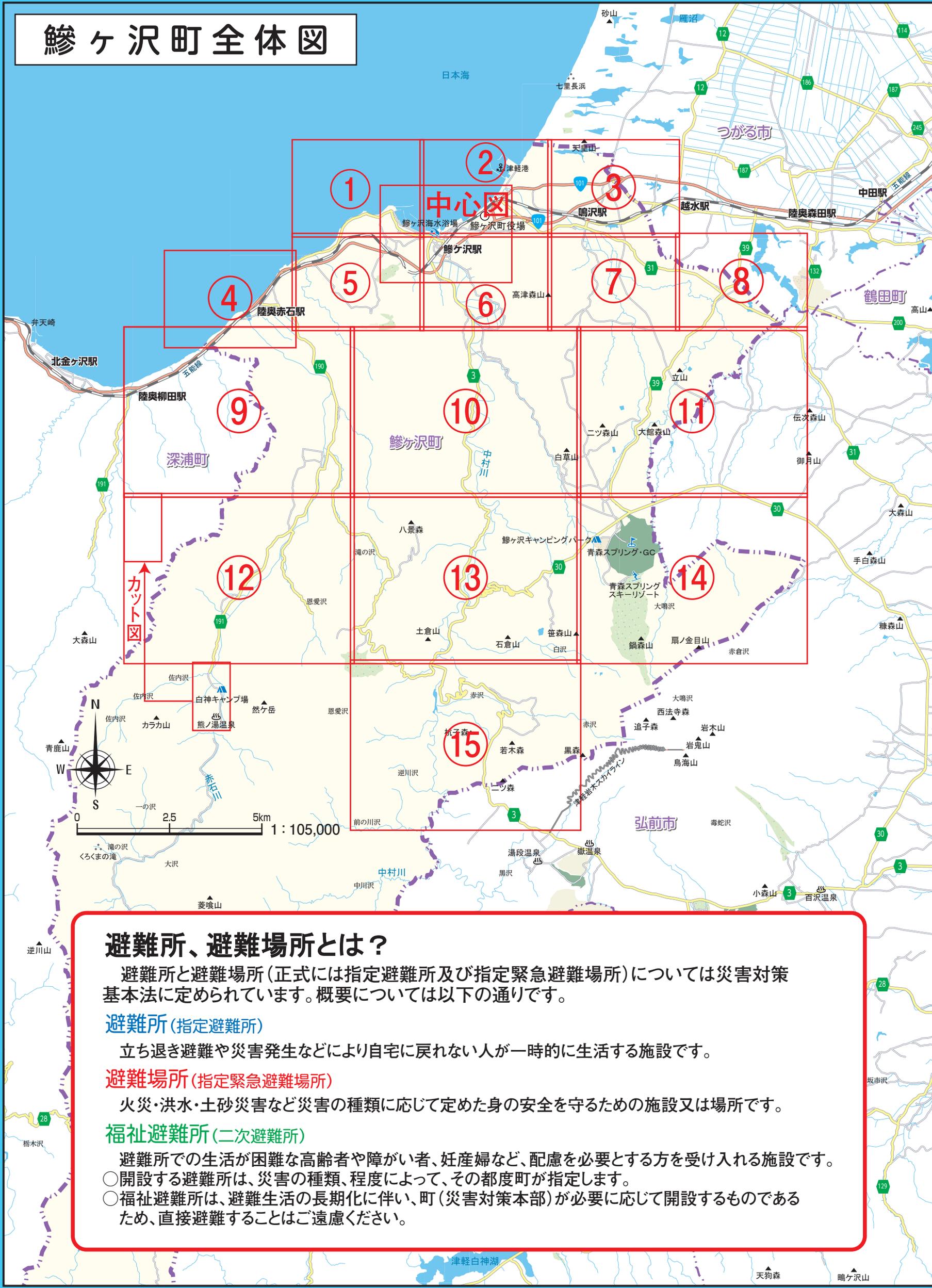
- ① マスク(ない場合はキッチンペーパーと輪ゴムで作成)
- ② アルコール消毒液
- ③ ハンドソープ・固形石けん(家族もしくは自分用を持参・避難所では共用しない)
- ④ 使い捨てのビニール手袋(ドアノブなど多くの人が触れるものからの接触感染を防ぐため)
- ⑤ 使い捨てのビニールエプロンまたはゴミ袋(避難所運営に協力する際に使用)
- ⑥ 体温計(町で用意出来ない場合があるため。使い慣れたものを持参しましょう)
- ⑦ ティッシュ、ウェットティッシュ、ペーパータオル、ポリ袋(多めに必要)
- ⑧ 携帯トイレ(トイレは我慢してはいけません。避難所のトイレが使えない場合に備えましょう)



鱒ヶ沢町指定避難所・指定緊急避難場所一覧

No.	施設・場所名	所在地	掲載地図 番号	避難所として使用が想定される災害							
				洪水	崖崩れ・ 土石流 及び地滑り	高潮	地震	津波	大規模 な火事	内水 氾濫	火山 現象
1	西海小学校	舞戸町字小夜 190	5・中心図	●		●	●	●	●	●	●
2	鱒ヶ沢中学校	赤石町字大和田 27	5	●	●		●		●	●	●
3	山村開発センター	本町 209-2	1・中心図	●	●				●	●	●
4	勤労青少年ホーム	舞戸町字小夜 151	5・中心図	●	●	●		●	●	●	●
5	勤労者体育センター	〃	5・中心図	●	●	●		●	●	●	●
6	室内温水プール	〃	5・中心図	●			●	●	●		
7	青森県立鱒ヶ沢高等学校	舞戸町字小夜 72	5・中心図					●			
8	鱒ヶ沢こども園	本町 51-2	1・中心図	●	●	●				●	●
9	天童山公園管理棟	舞戸町字小夜 616	1・中心図	●		●		●	●	●	●
10	中央公民館	本町 209-2	1・中心図	●	●				●	●	●
11	舞戸小学校	舞戸町字久富 27	6・中心図	●	●	●	●		●	●	●
12	舞戸公民館	舞戸町字上富田 149-2	6・中心図		●				●		
13	鱒ヶ沢町総合保健福祉センター	舞戸町字後家屋敷 9-4	6・中心図	●	●	●	●	●	●	●	●
14	(旧) 南金沢小学校	南金沢町字晴間 20-8	9	●	●	●		●	●	●	●
15	(旧) 一ツ森小学校	一ツ森町字上禿 88-2	12	●	●	●		●		●	●
16	赤石公民館	赤石町字宇名原 232-2	4	●	●	●	●		●	●	●
17	南金沢生活改善センター	南金沢町字床夏 204-3	9	●	●	●		●		●	●
18	一ツ森林業センター	一ツ森町字上禿 88-2	12	●		●		●		●	●
19	(旧) 鳴沢小学校	北浮田町字外馬屋 51-3	3・7	●	●	●		●	●	●	●
20	(旧) 建石小学校	建石町字島田 150	8	●	●	●	●		●	●	●
21	山田野集会所	建石町字大曲 217-2	11	●	●	●		●		●	●
22	鳴沢公民館	北浮田町字外馬屋 83-3	3	●	●	●	●		●	●	●
23	鳴沢農業実習センター	建石町字大曲 44-17	7	●	●	●		●		●	●
24	北浮田集会所	北浮田町字今須前田 57-1	2	●	●	●		●	●	●	●
25	中村公民館	中村町字中山ノ井 109	6	●	●	●	●			●	●
26	南浮田農業センター	南浮田町字早田 83-2	2	●	●	●		●		●	●
27	アグリビジネスホール	建石町大字成沢 77	8	●	●	●	●		●	●	●
28	長平生活改善センター	長平町字甲音羽山 65-123	14	●	●	●		●		●	
29	長平青少年旅行村研修センター	長平町字甲音羽山地内	14	●	●	●		●		●	
30	芦荻へき地保健福祉館	芦荻町字鹿子石 82-5	13	●	●	●		●	●		
31	中下農村婦人の家	中村町字下清水崎 142-1	6	●	●	●		●		●	●
32	浜横沢生活改善センター	浜横沢町字金沢 7-2	10	●	●	●		●		●	●
33	鱒ヶ沢中学校第二体育館	舞戸町字鳴戸 390	2・中心図	●	●	●		●	●	●	●
34	(旧) 中村小学校	中村町字上山ノ井 62	10	●		●		●	●	●	●
35	川尻営農総合研修所	北浮田町字今須 154-178	2	●	●	●		●		●	●
36	小森林業センター	小森町字野田 99-3	12	●	●	●		●		●	●
37	小ノ畑生活改善センター	浜横沢町字深沢 8-1	10	●	●	●		●		●	
38	西海小学校グラウンド	舞戸町字小夜 190	5・中心図					●			
39	大和田貯水池	大和田	1					●			
40	豊受美神社	淀町	1					●			
41	延寿院	富根町	1					●			
42	新地稲荷神社	新地町	1					●			
43	天童山公園	釣町	1・中心図					●			
44	一丁目八幡様裏山	一丁目	1・中心図					●			
45	白八幡宮	一丁目	1・中心図					●			
46	神明宮	二丁目	5・中心図					●			
47	石上神社	七ツ石町	5・中心図					●			
48	山寺子	田中町	6・中心図					●			
49	鱒ヶ沢ファッション	舞戸町鳴戸	2・6・中心図					●			
50	館稲荷神社	舞戸町館	6・中心図					●			
51	近くの高台 (岩谷・三ツ沢)	舞戸町	6					●			
52	近くの高台 (川尻)	北浮田町今須	2					●			
53	近くの高台 (北浮田)	北浮田町今須浜田	2					●			
54	近くの高台 (南浮田)	南浮田町字米山 他	3・7					●			
55	松源寺	赤石町字宇名原・山岸	4					●			
56	近くの高台 (牛島)	姥袋町字大磯	4・9					●			
57	近くの高台 (姥袋)	姥袋町字霜坂熊ヶ沢	9					●			

鱒ヶ沢町全体図



避難所、避難場所とは？

避難所と避難場所(正式には指定避難所及び指定緊急避難場所)については災害対策基本法に定められています。概要については以下の通りです。

避難所(指定避難所)

立ち退き避難や災害発生などにより自宅に戻れない人が一時的に生活する施設です。

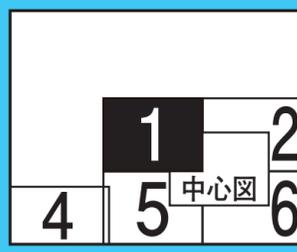
避難場所(指定緊急避難場所)

火災・洪水・土砂災害など災害の種類に応じて定めた身の安全を守るための施設又は場所です。

福祉避難所(二次避難所)

避難所での生活が困難な高齢者や障がい者、妊産婦など、配慮を必要とする方を受け入れる施設です。

- 開設する避難所は、災害の種類、程度によって、その都度町が指定します。
- 福祉避難所は、避難生活の長期化に伴い、町(災害対策本部)が必要に応じて開設するものであるため、直接避難することをご遠慮ください。



土砂災害凡例

- 土砂災害特別警戒区域
著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)
- 土砂災害警戒区域
危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

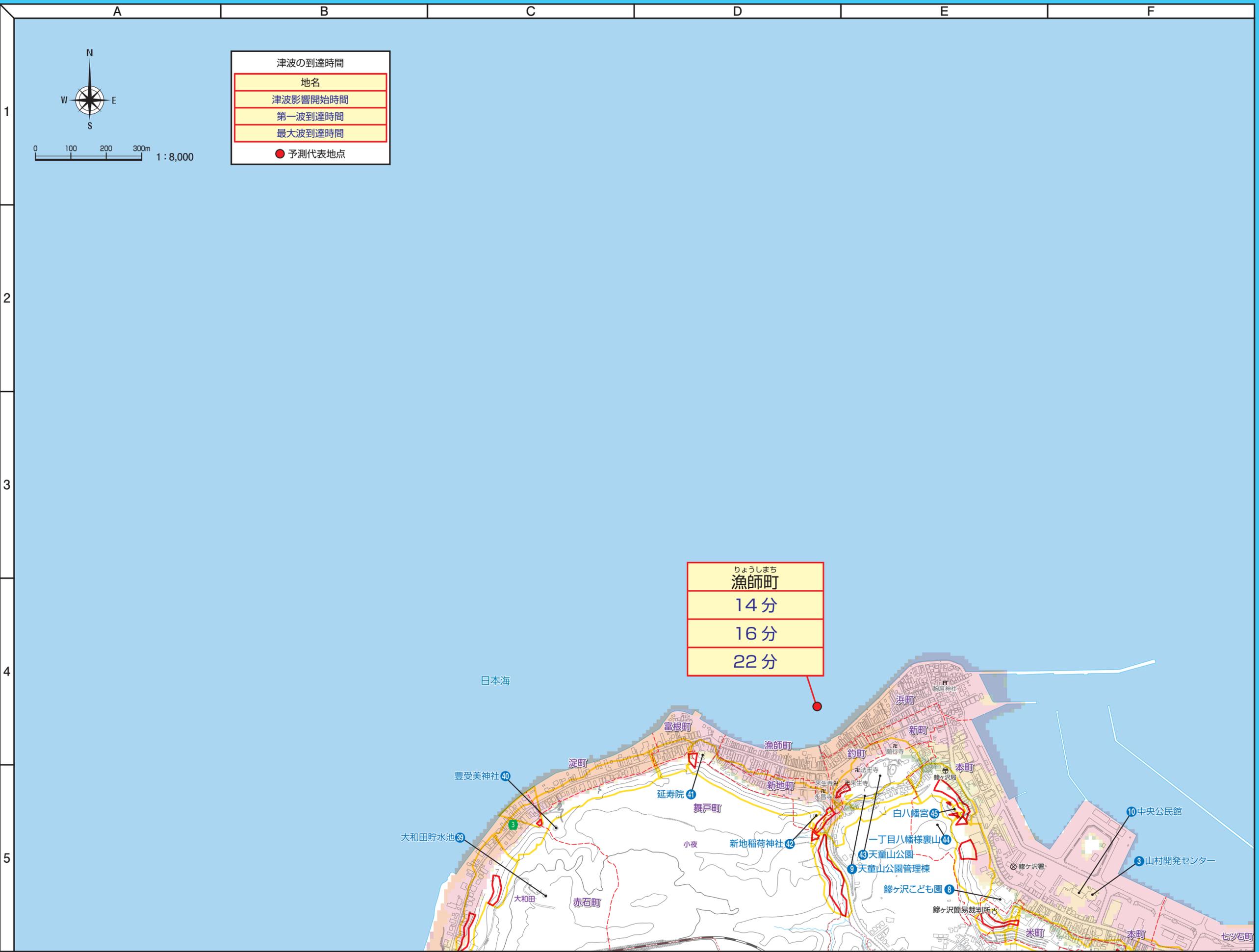
- 浸水深0.5m未満
- 浸水深0.5～3.0m未満
- 浸水深3.0～5.0m未満
- 浸水深5.0～10.0m未満

津波浸水想定凡例

- 浸水深0.3m未満
- 浸水深0.3～1.0m未満
- 浸水深1.0～2.0m未満
- 浸水深2.0～5.0m未満
- 浸水深5.0～10.0m未満
- 浸水深10.0～20.0m未満
- 浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示
※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



りょうしまち 漁師町
14分
16分
22分

1	2	3
5	中心図	6
		7

土砂災害凡例

- 土砂災害特別警戒区域**
著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)
- 土砂災害警戒区域**
危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

- 浸水深0.5m未満
- 浸水深0.5~3.0m未満
- 浸水深3.0~5.0m未満
- 浸水深5.0~10.0m未満

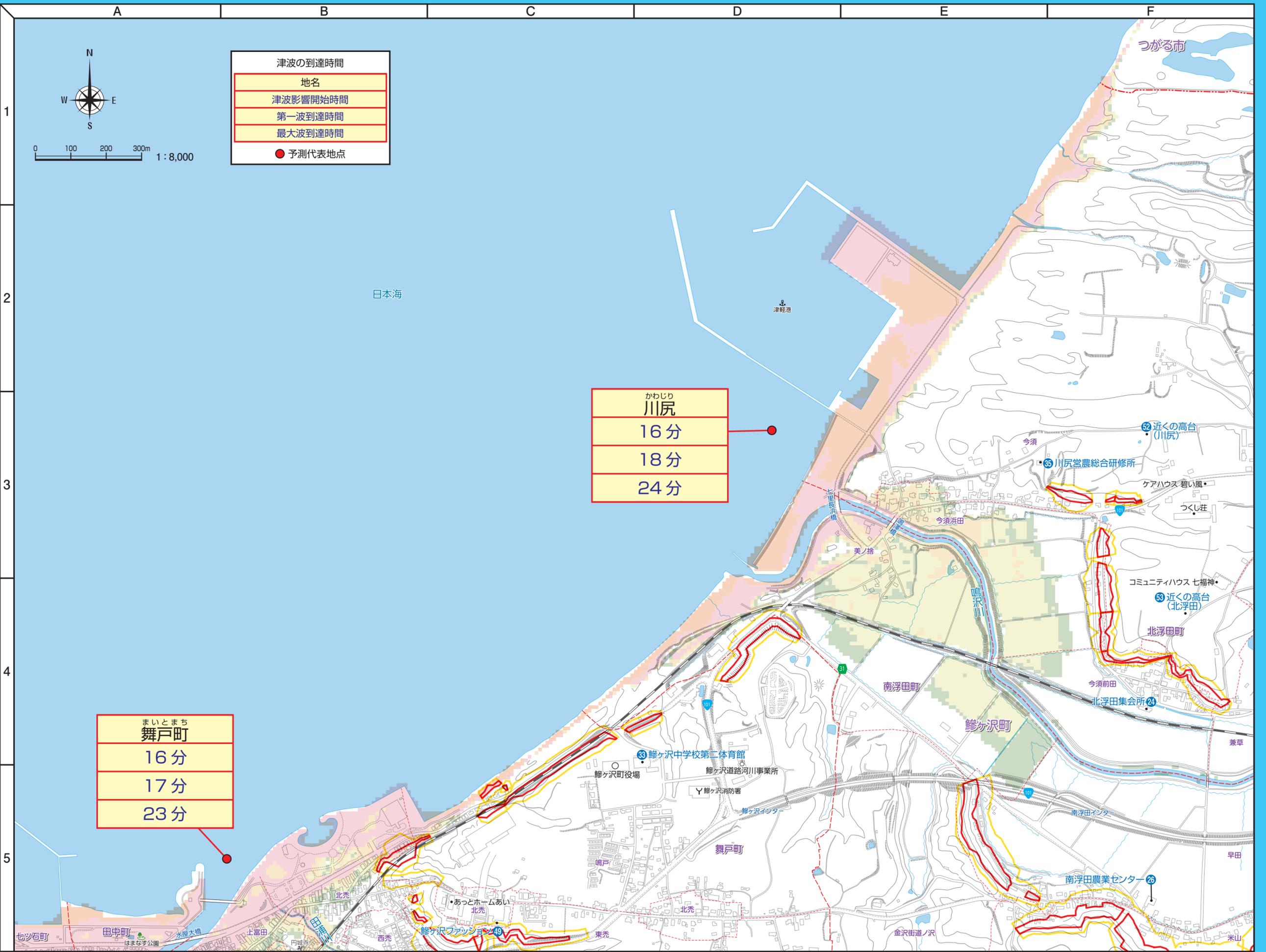
津波浸水想定凡例

- 浸水深0.3m未満
- 浸水深0.3~1.0m未満
- 浸水深1.0~2.0m未満
- 浸水深2.0~5.0m未満
- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深10.0~20.0m未満
- 浸水深20.0m以上

**指定避難所
指定緊急避難場所**

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



2	3
6	7
8	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
 著しい危険が生じる恐れのある区域
 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
 危険が生じる恐れのある区域
 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

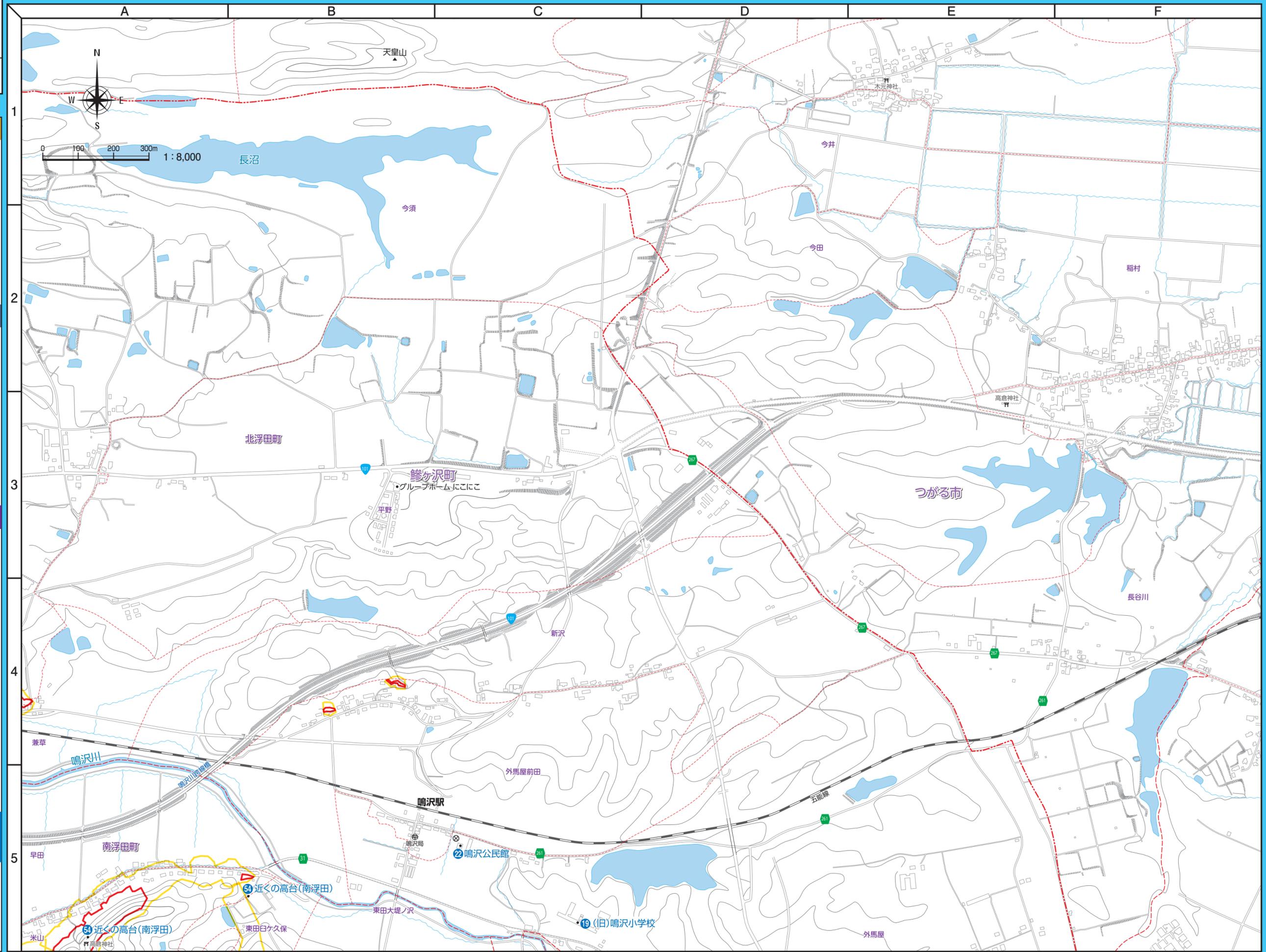
浸水深10.0~20.0m未満

浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
 各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



	1	2
4	5	6
9	10	

中心図

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

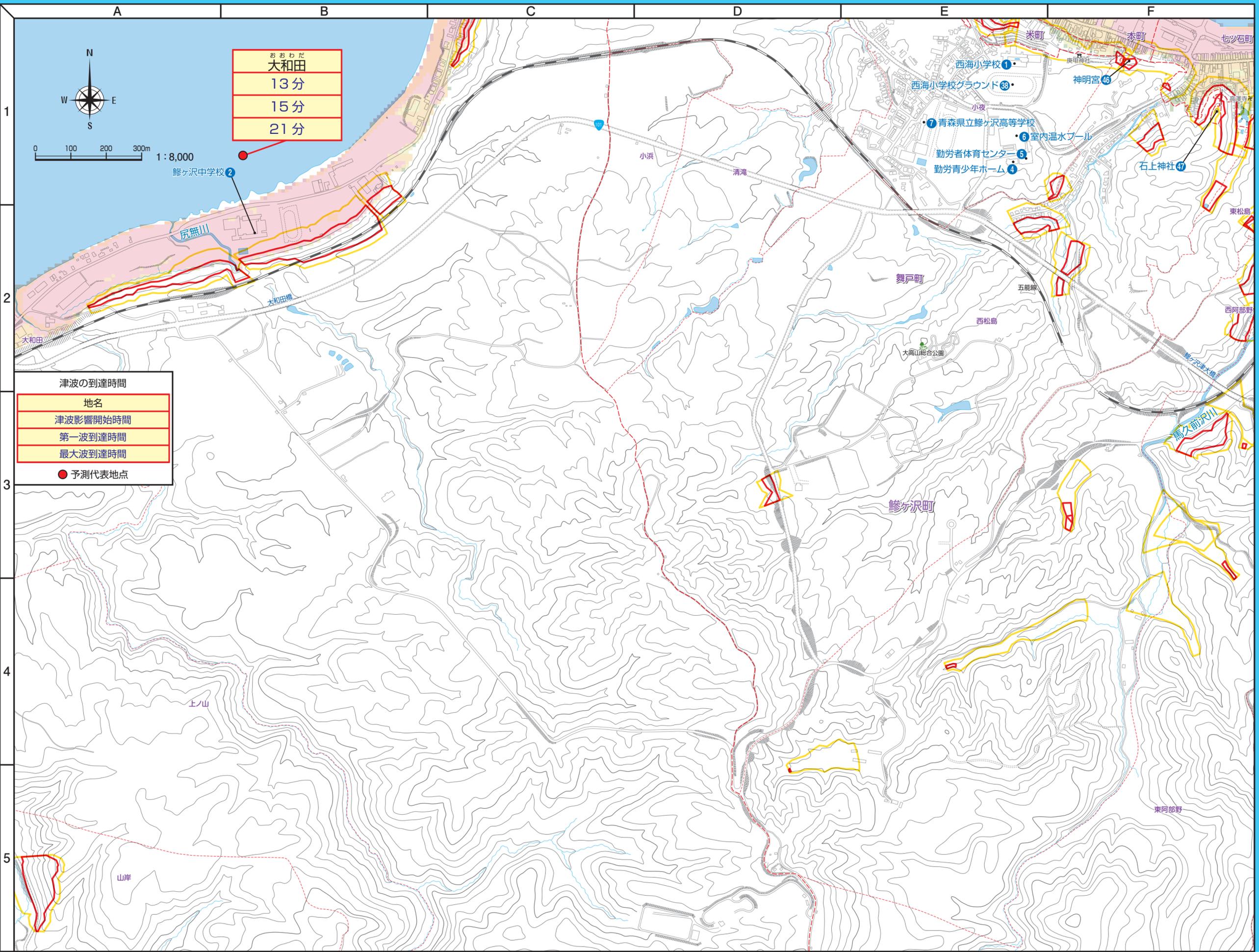
浸水深10.0~20.0m未満

浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



1	中心図	2	3
5	6	7	
9	10	11	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
 著しい危険が生じる恐れのある区域
 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
 危険が生じる恐れのある区域
 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定

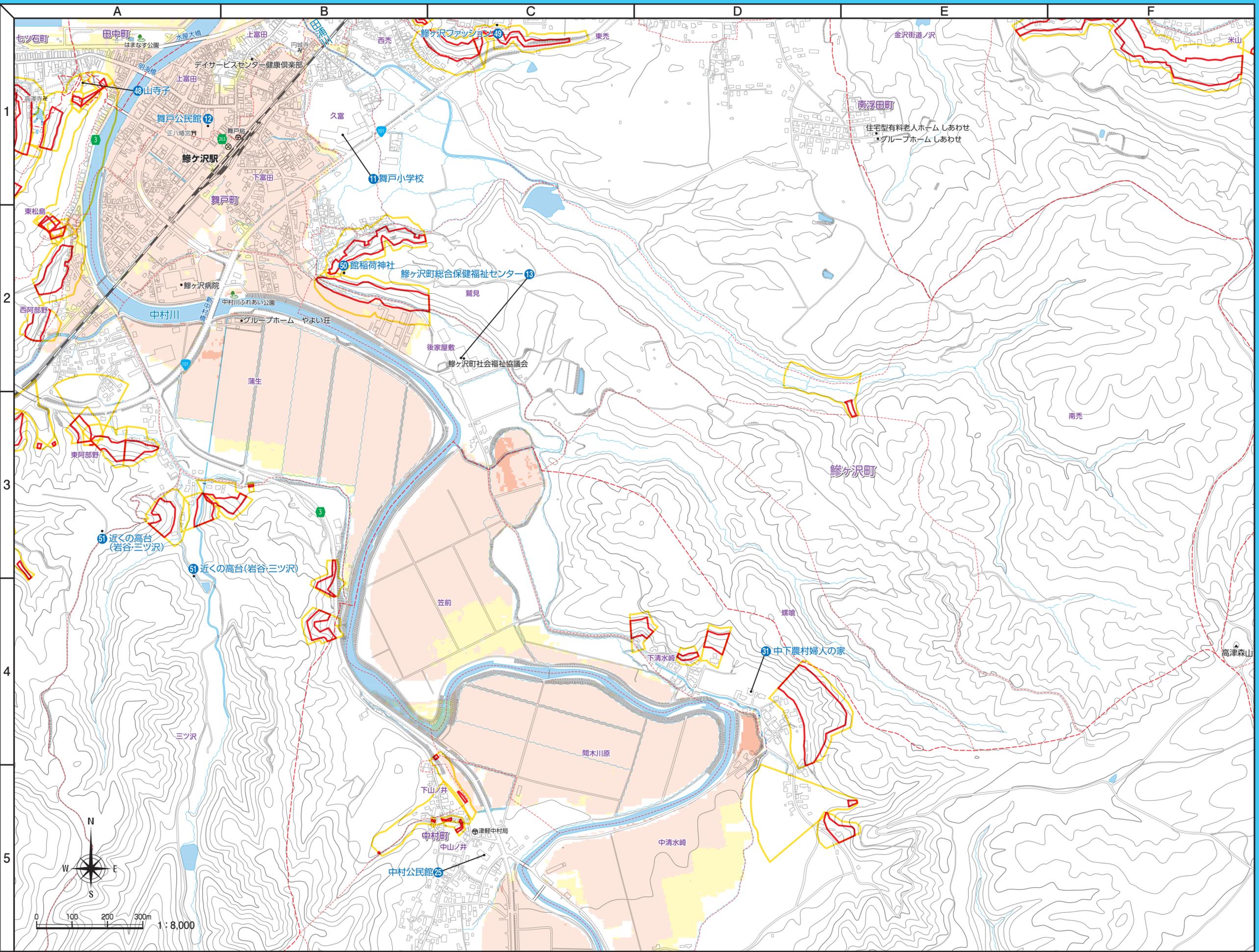
津波の浸水想定範囲については、P45・46の「鯨ヶ沢町中心部津波浸水想定図」でご確認ください

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています

各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



2	3	
6	7	8
10	11	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域
(レッドゾーン)



土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域
(イエローゾーン)



河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満



浸水深0.5~3.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満

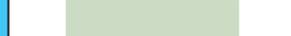


浸水深5.0~10.0m未満

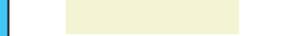


津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満



浸水深0.3~1.0m未満



浸水深1.0~2.0m未満



浸水深2.0~5.0m未満



浸水深5.0~10.0m未満



浸水深10.0~20.0m未満



浸水深20.0m以上

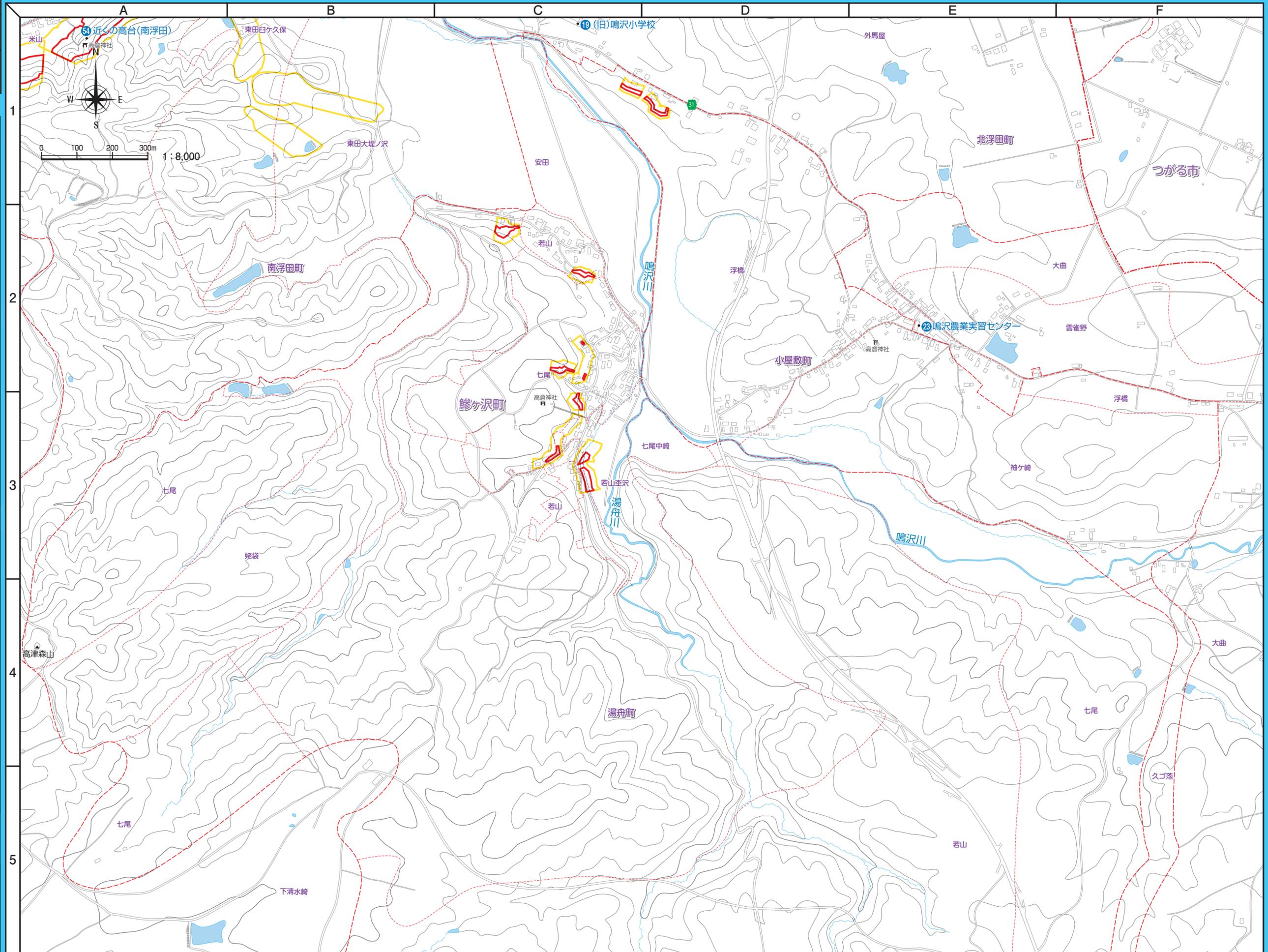


指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、13頁
をご覧ください



3	
7	8
11	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)



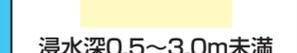
土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

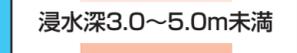


河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満



浸水深0.5~3.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



浸水深5.0~10.0m未満

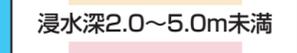


津波浸水想定凡例

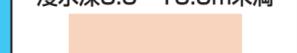
浸水深0.3m未満



浸水深0.3~1.0m未満



浸水深1.0~2.0m未満



浸水深2.0~5.0m未満



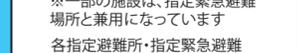
浸水深5.0~10.0m未満



浸水深10.0~20.0m未満



浸水深20.0m以上



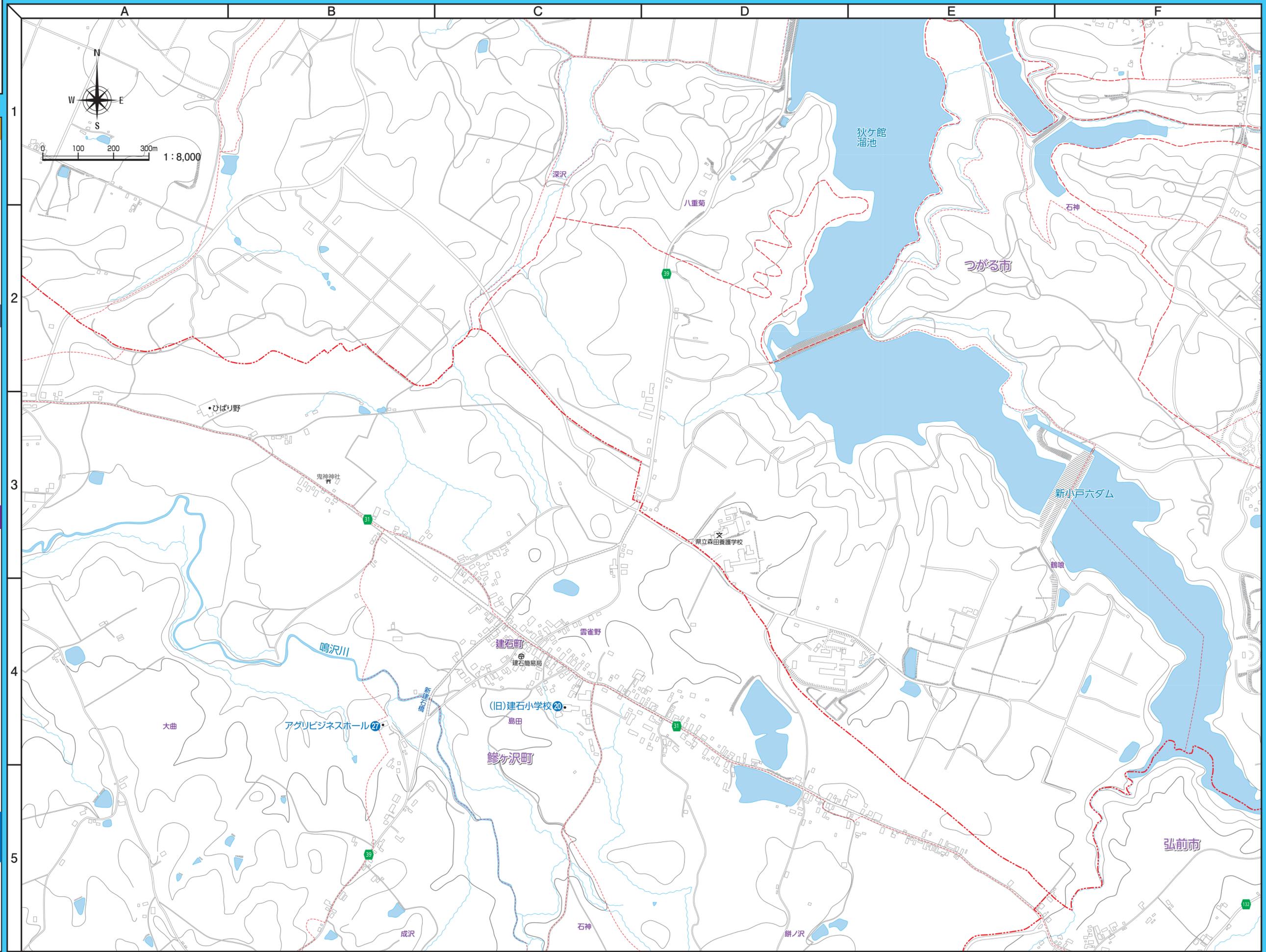
指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています

各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



	1	2
4	5	6
9	10	
12	13	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
 著しい危険が生じる恐れのある区域
 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
 危険が生じる恐れのある区域
 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

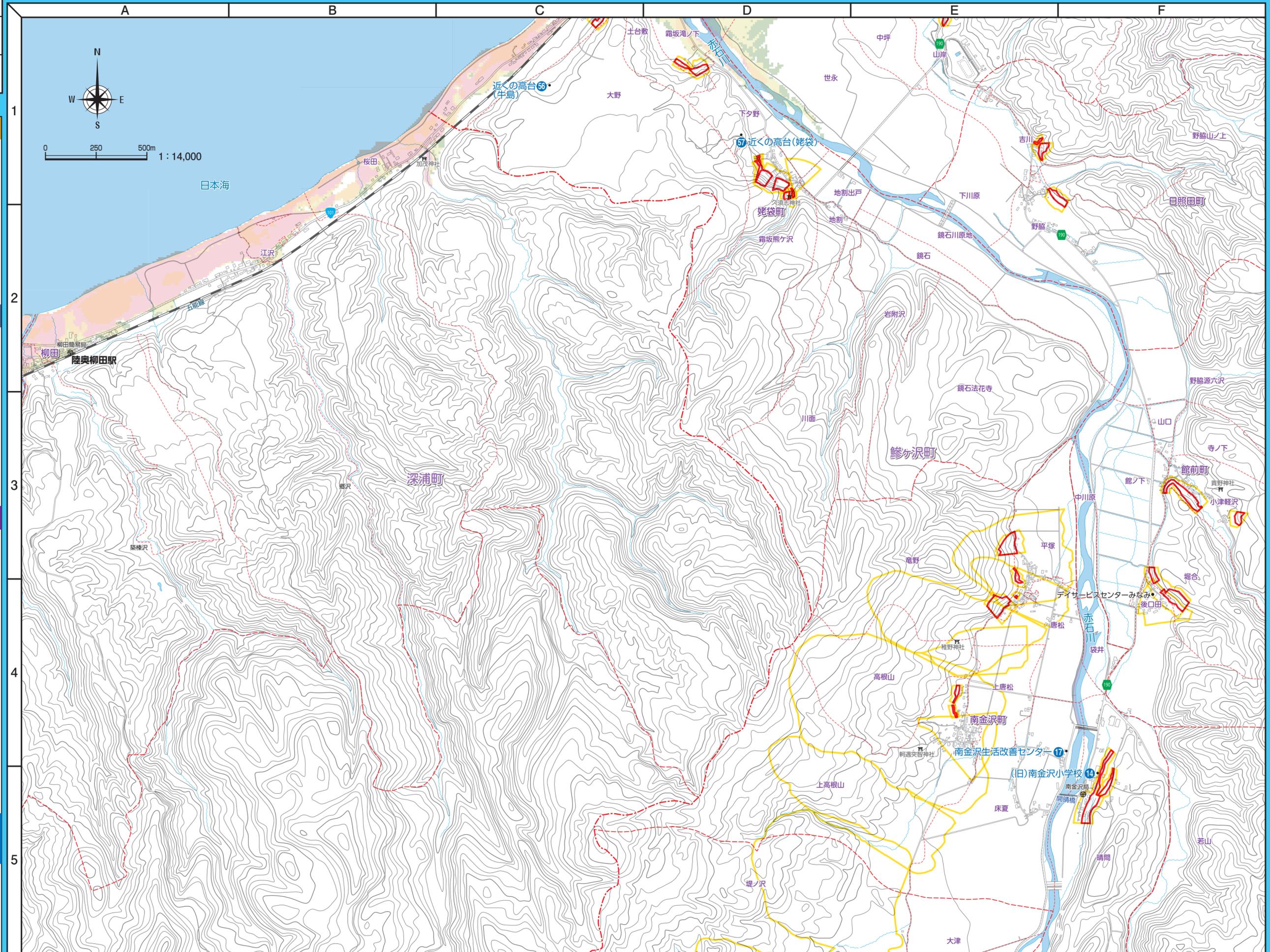
浸水深10.0~20.0m未満

浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と
 施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
 各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



	1	2	3	
4	5	6	7	8
9	10	11		
12	13	14		

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

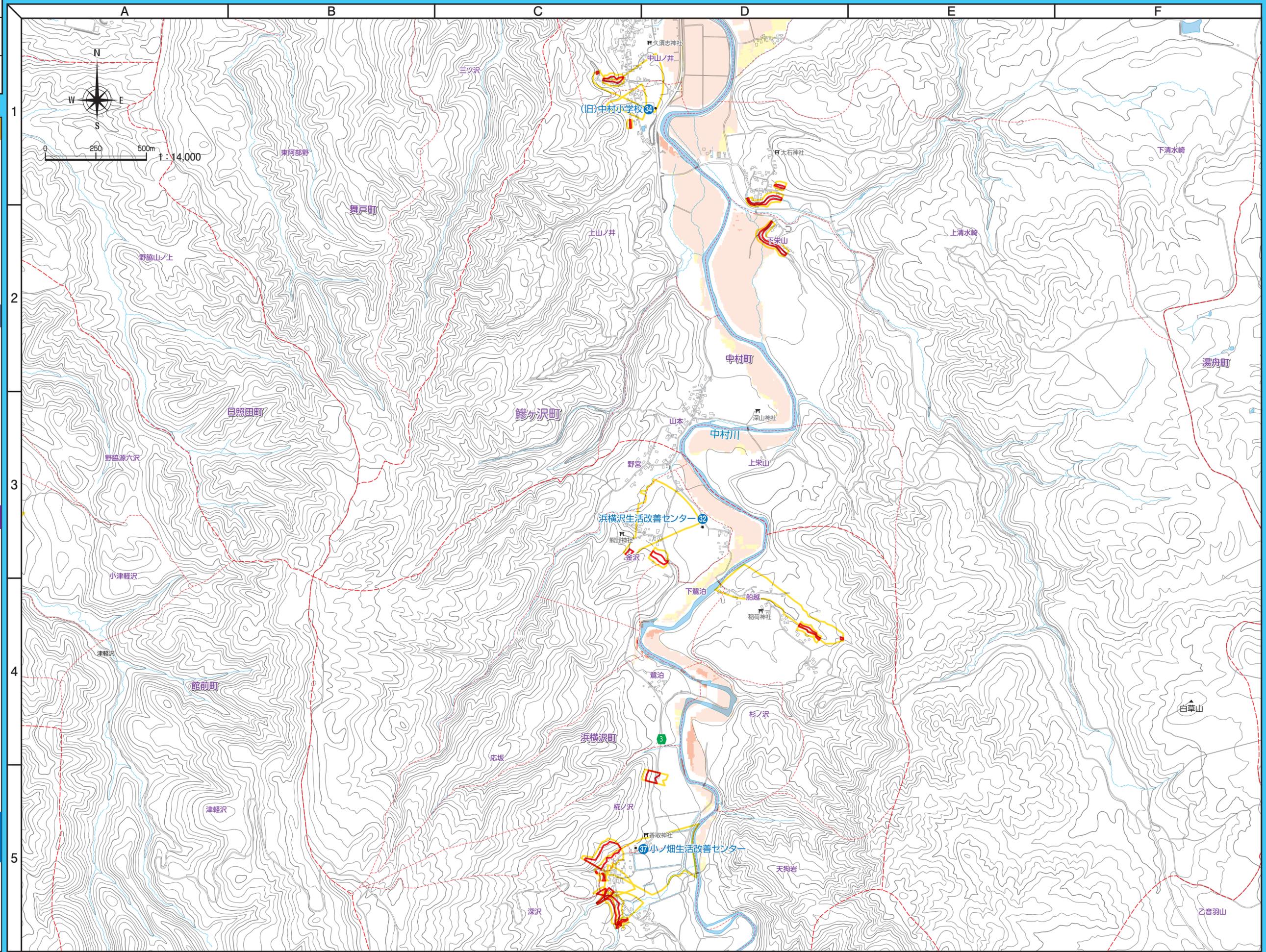
浸水深10.0~20.0m未満

浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



1	2	3	
5	6	7	8
10	11		
13	14		

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域
(レッドゾーン)



土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域
(イエローゾーン)



河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

浸水深10.0~20.0m未満

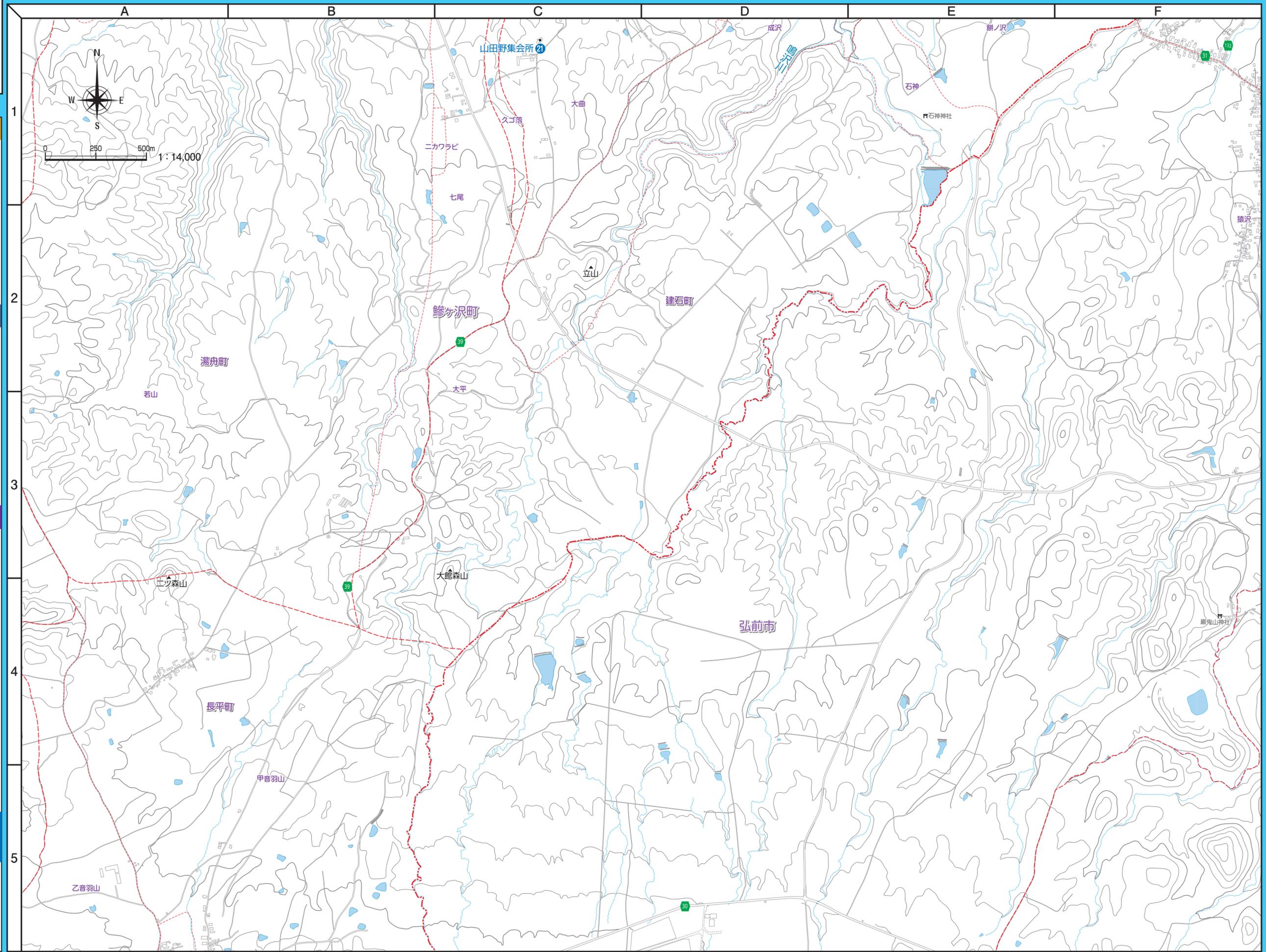
浸水深20.0m以上

指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、13頁
をご覧ください



9	10
12	13
	15

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域
(レッドゾーン)



土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域
(イエローゾーン)



河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満



浸水深0.5~3.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



浸水深5.0~10.0m未満



津波浸水想定凡例

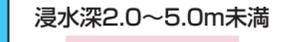
浸水深0.3m未満



浸水深0.3~1.0m未満



浸水深1.0~2.0m未満



浸水深2.0~5.0m未満



浸水深5.0~10.0m未満



浸水深10.0~20.0m未満



浸水深20.0m以上

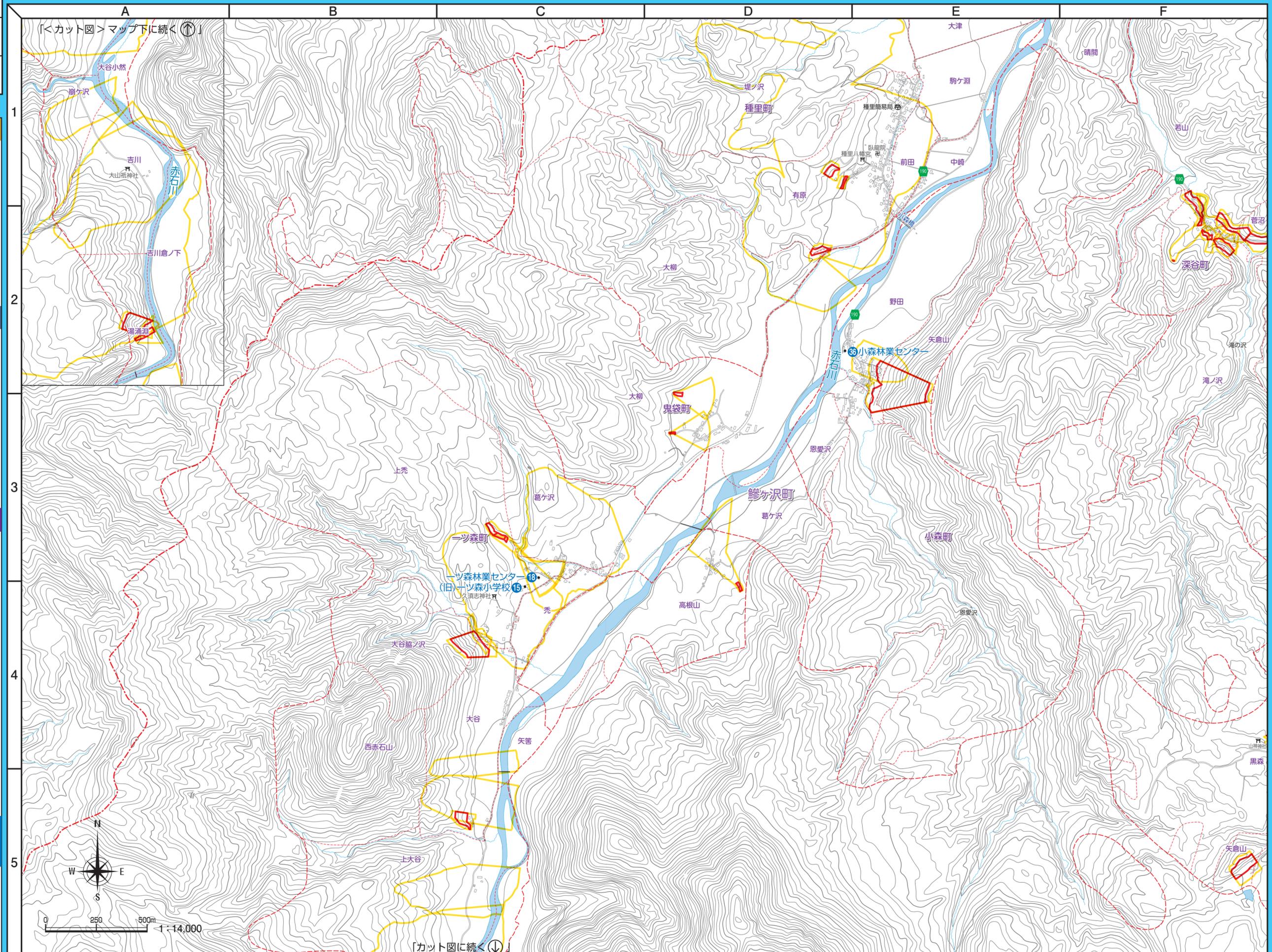


指定避難所

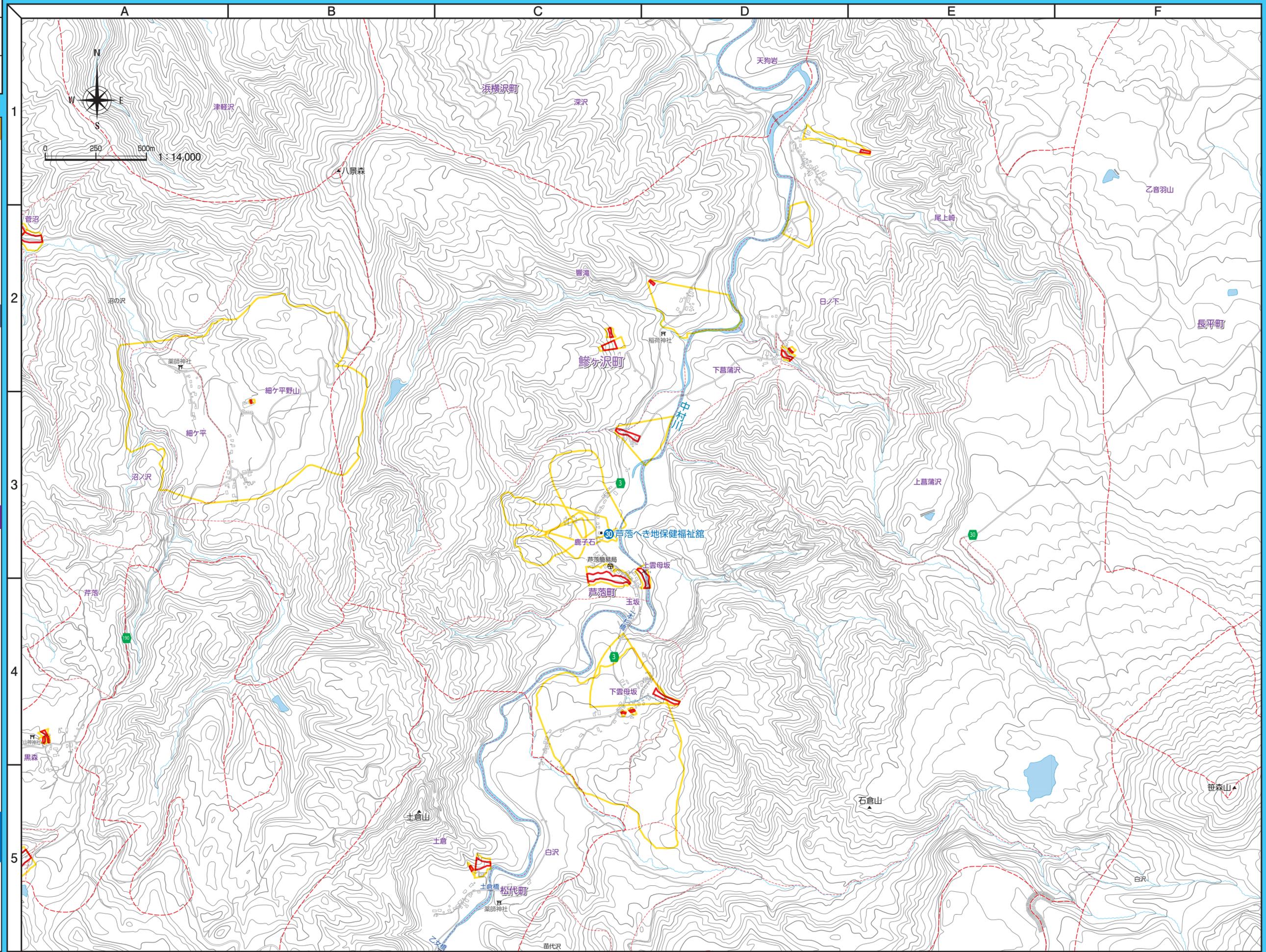
指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



9	10	11
12	13	14
15		



土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域
(レッドゾーン)



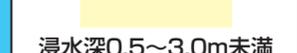
土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域
(イエローゾーン)

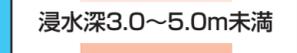


河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満



浸水深0.5~3.0m未満



浸水深3.0~5.0m未満



浸水深5.0~10.0m未満

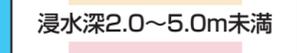


津波浸水想定凡例

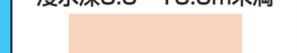
浸水深0.3m未満



浸水深0.3~1.0m未満



浸水深1.0~2.0m未満



浸水深2.0~5.0m未満



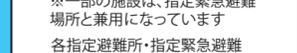
浸水深5.0~10.0m未満



浸水深10.0~20.0m未満



浸水深20.0m以上



指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています

各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください

10	11
13	14
15	

土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域
著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域
危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

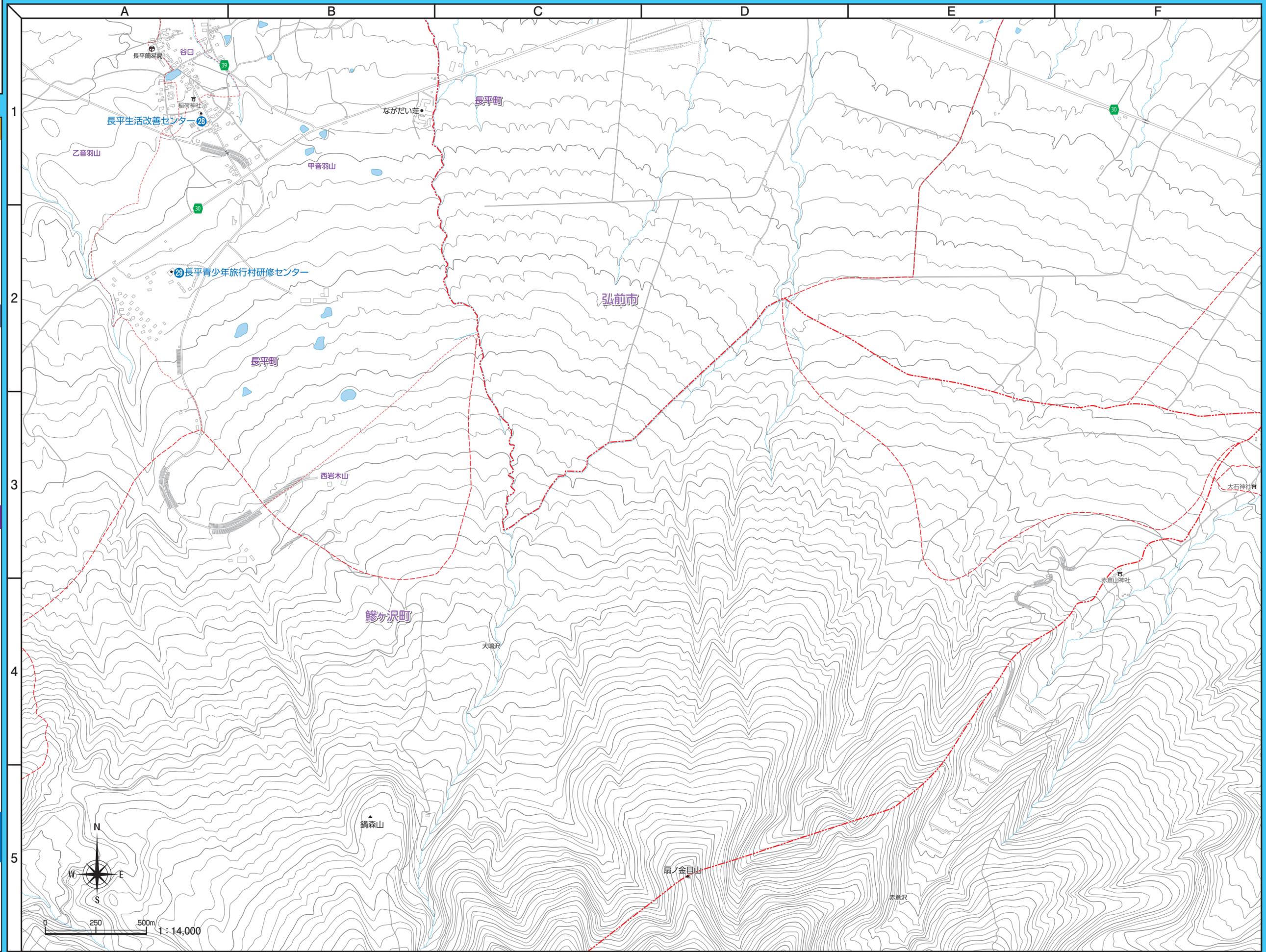
浸水深10.0~20.0m未満

浸水深20.0m以上

指定避難所
指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



土砂災害凡例

土砂災害特別警戒区域

著しい危険が生じる恐れのある区域 (レッドゾーン)

土砂災害警戒区域

危険が生じる恐れのある区域 (イエローゾーン)

河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満

浸水深0.5~3.0m未満

浸水深3.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

津波浸水想定凡例

浸水深0.3m未満

浸水深0.3~1.0m未満

浸水深1.0~2.0m未満

浸水深2.0~5.0m未満

浸水深5.0~10.0m未満

浸水深10.0~20.0m未満

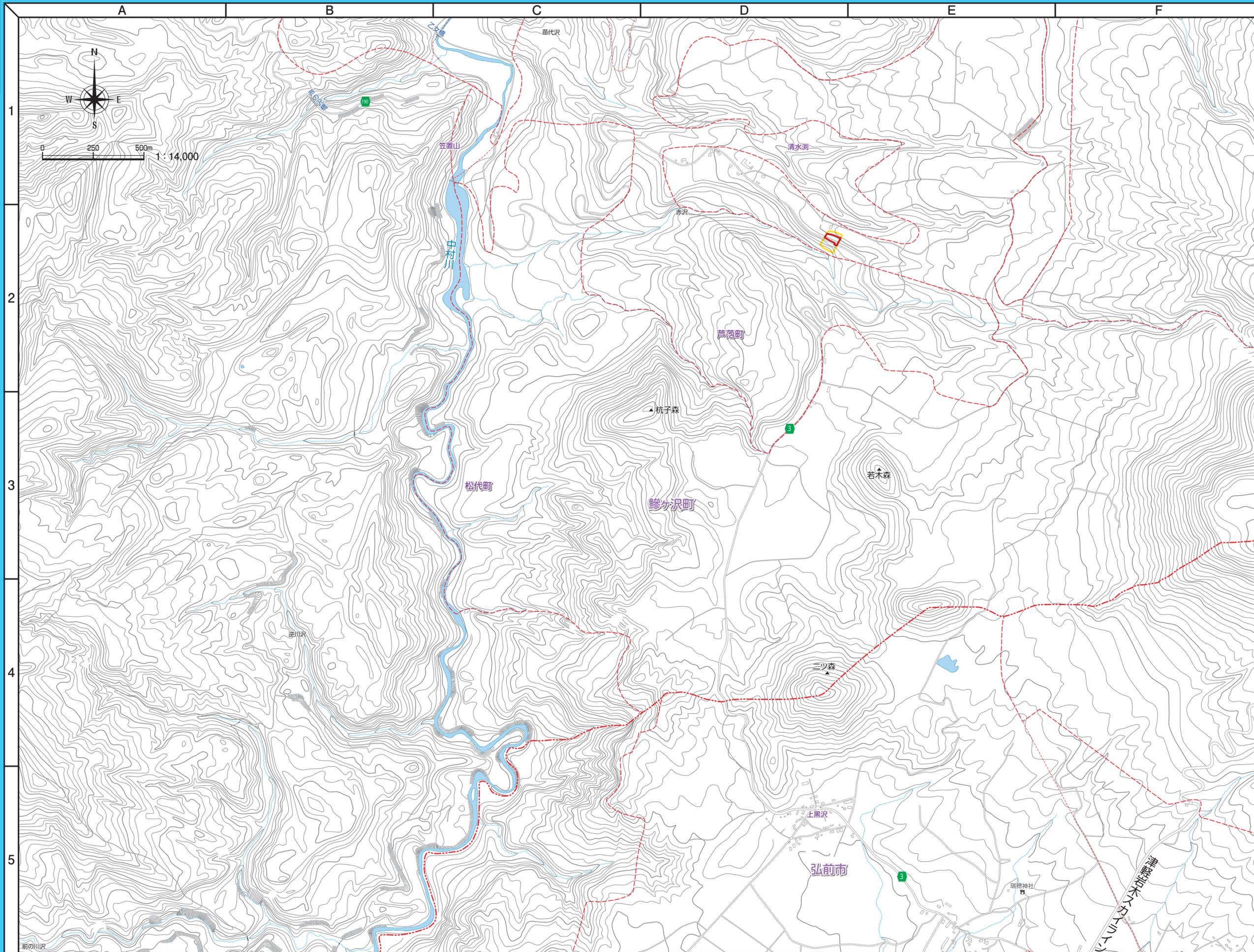
浸水深20.0m以上

指定避難所

指定緊急避難場所

青色の番号と施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難場所と兼用になっています
各指定避難所・指定緊急避難場所についての詳細は、13頁をご覧ください



鱒ヶ沢町中心部津波浸水想定図

1 2
5 6
鱒ヶ沢町中心部
津波浸水想定図

津波浸水想定凡例

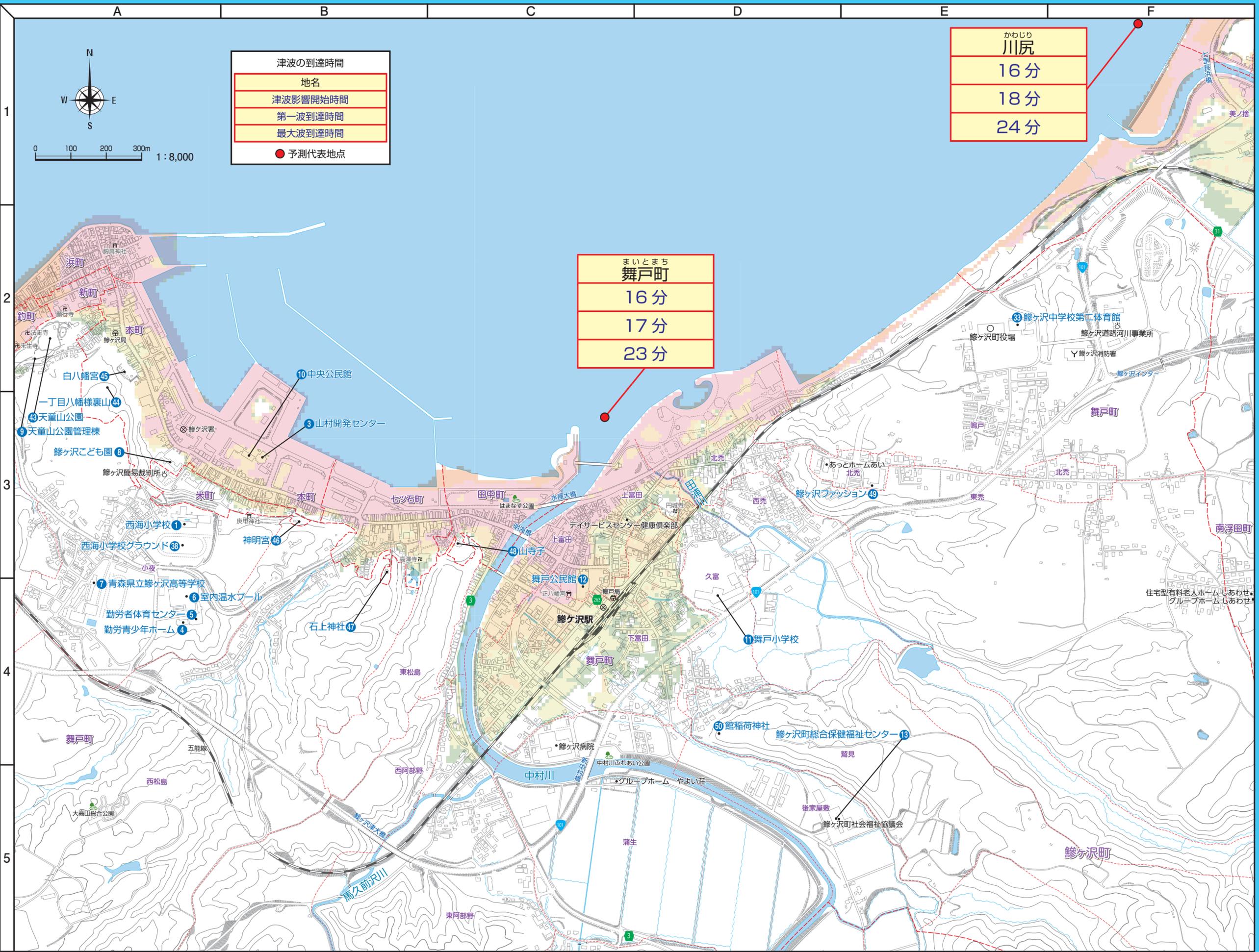
- 浸水深0.3m未満
- 浸水深0.3~1.0m未満
- 浸水深1.0~2.0m未満
- 浸水深2.0~5.0m未満
- 浸水深5.0~10.0m未満
- 浸水深10.0~20.0m未満
- 浸水深20.0m以上

指定避難所 指定緊急避難場所

青色の番号と
施設名で表示

※一部の施設は、指定緊急避難
場所と兼用になっています

各指定避難所・指定緊急避難
場所についての詳細は、13頁
をご覧ください



津波の到達時間
地名
津波影響開始時間
第一波到達時間
最大波到達時間
● 予測代表地点

かわじり 川尻
16分
18分
24分

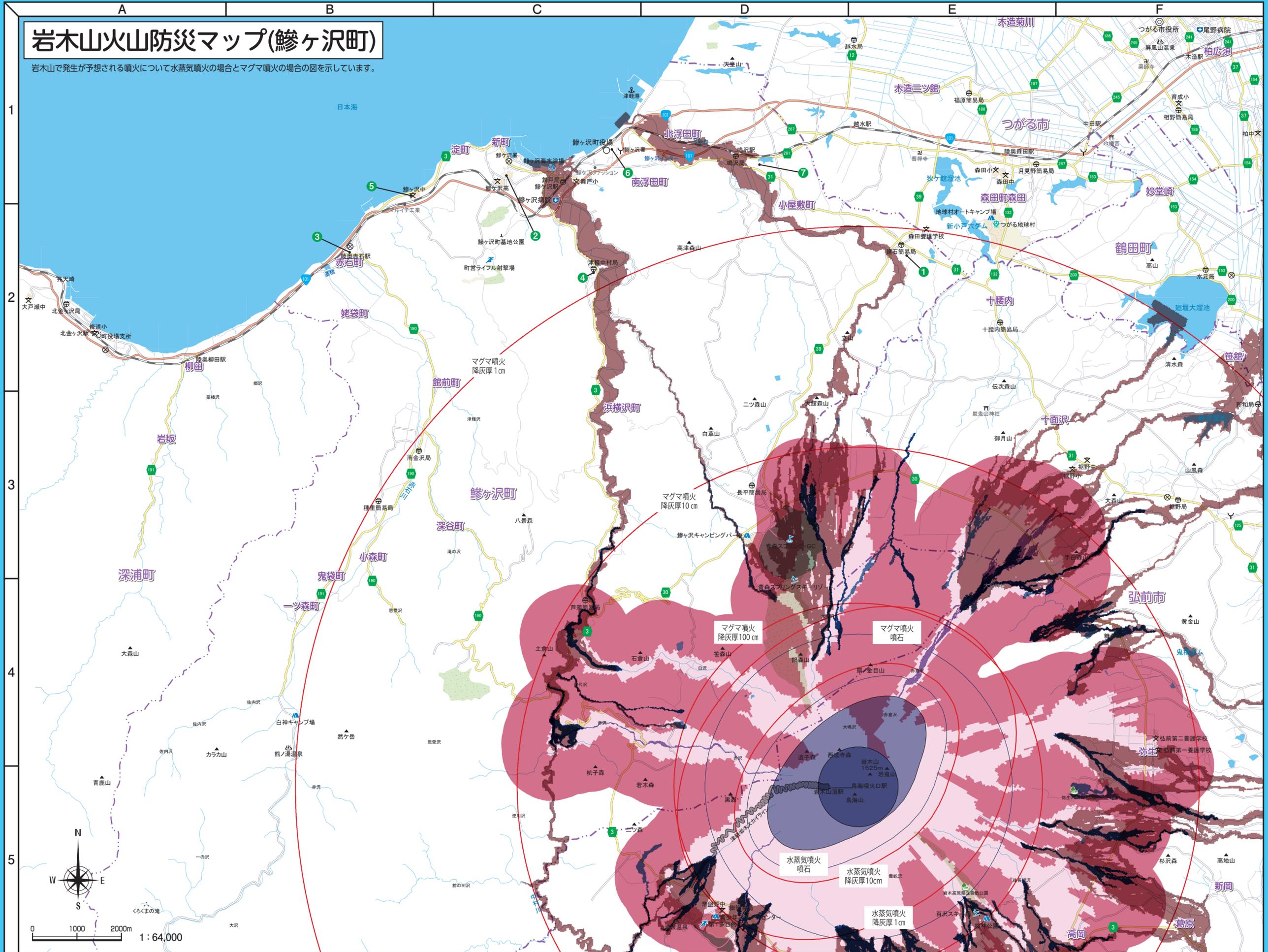
まいとまち 舞戸町
16分
17分
23分

記号の色と意味

- 火口** スカイライン・登山道・リフト施設等の破壊
- 想定火口範囲** 想定火口の円内では、どこからでも噴火が発生する可能性があります。
- 噴石** 人体への被害、リフト施設等の破壊
- 噴石が弾道を描いて飛び散る範囲を、全方向について示しています。**
- 降灰** 健康被害、施設等の破壊、交通障害、農作物・森林等の被害
- 風下の場合の予想降灰層厚を、全方向について示しています。**
- 火口噴出型泥流** 噴火にともなって、火口から泥水が溢れ出す場合の氾濫する範囲を示しています。
- 噴火の直後には...**
- 降灰後の土石流** 人体への被害、家屋・畑・道路等への被害
噴火後の降雨による土石流の予想氾濫範囲を示しています。土石流は降灰があった渓流で発生しやすいです。
- 火砕流・火砕サージ** 人体への被害、施設等の破壊、山火事、農作物・森林等の被害
色の薄い部分 火砕流の土砂(本体)の流下範囲を示しています。
色のやや濃い部分 熱風(火砕サージ)の到達範囲を示しています。
- 雪の多い時期には...**
- 融雪型火山泥流** 人体への被害、家屋・畑・道路等への被害
融雪型火山泥流が流下し、氾濫する範囲を示しています。
火砕流が流下した斜面で雪が融けて発生します。全ての方向で同時に発生するわけではありません。

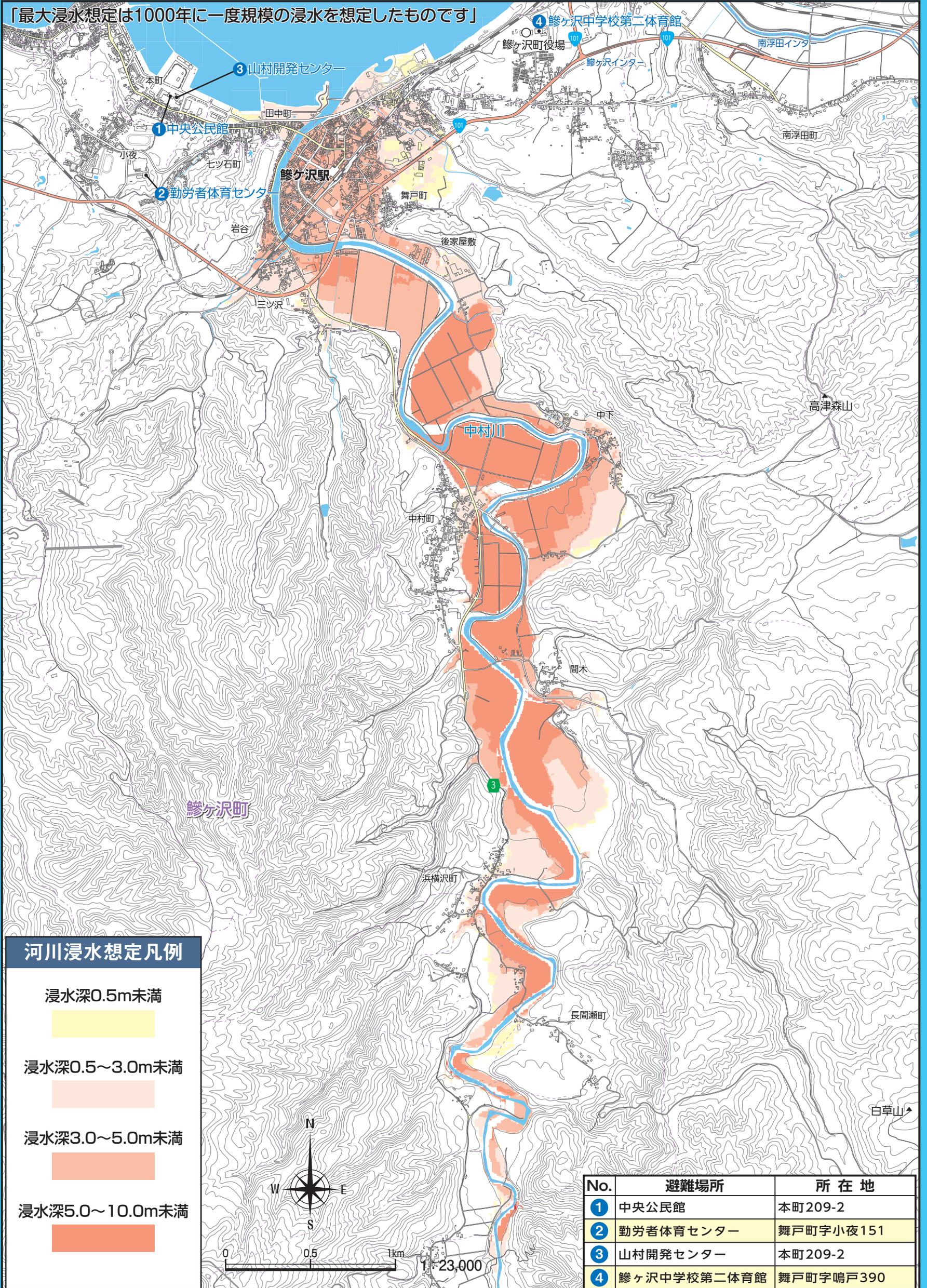
岩木山火山防災マップ(鱒ヶ沢町)

岩木山で発生が予想される噴火について水蒸気噴火の場合とマグマ噴火の場合の図を示しています。



中村川最大浸水想定図

「最大浸水想定は1000年に一度規模の浸水を想定したものです」



河川浸水想定凡例

浸水深0.5m未満



浸水深0.5～3.0m未満



浸水深3.0～5.0m未満



浸水深5.0～10.0m未満



0 0.5 1km 1:23,000

No.	避難場所	所在地
①	中央公民館	本町209-2
②	勤労者体育センター	舞戸町字小夜151
③	山村開発センター	本町209-2
④	鱈ヶ沢中学校第二体育館	舞戸町字鳴戸390

わが家の「防災・緊急情報」メモ

非常時・緊急時に連絡してほしい方や、利用してもらいたいわが家の情報です。
災害時に救助の方や、緊急時に救急隊・医療機関・町に情報を提供します。

世帯主氏名		電 話	
住 所			

避難場所	
家族が離ればなれになった時の避難場所	

家族構成 連絡先	氏 名	生年月日	電話(携帯・会社・学校)	住 所	メ モ	

家族の 緊急情報・ 救急メモ	氏 名	血液型	持病・アレルギー	持病薬	かかりつけ医療機関	
【メモ】※書ききれなかった内容や、知ってほしい情報(介護情報・救急隊員への伝言など)をお書きください。						

緊急時 連絡先	氏 名	間柄	電 話	住 所	メ モ	

情報収集方法

国交省「防災情報提供センター」

- <https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/>
- 携帯電話から <https://www.mlit.go.jp/saigai/bosaijoho/i-index.html>

気象庁

- <https://www.jma.go.jp/>

青森地方気象台

- <https://www.data.jma.go.jp/aomori/index.html>

消防庁

- <https://www.fdma.go.jp/>

鱒ヶ沢町ホームページ(防災情報)

- <https://www.town.ajigasawa.lg.jp>

青森県河川砂防情報提供システム

- <http://www.kasensabo.bousai.pref.aomori.jp>

青森県土砂災害警戒情報システム

- <https://www.dosya-keikai.pref.aomori.jp>

青森県土砂災害警戒区域等マップ

- <http://www.sabomap.jp/aomori/>

災害用伝言ダイヤル

災害用伝言ダイヤルとは？

地震、噴火などの災害の発生により、被災地への通信が増加し、つながりにくい状況になった場合に提供が開始される声の伝言板です。

伝言の録音 171-1-被災地の方の電話番号

伝言の再生 171-2-被災地の方の電話番号

伝言内容(時間) 1伝言あたり30秒以内

伝言保存期間 災害用伝言ダイヤル(171)運用終了まで

伝言蓄積数 1電話番号当たり20伝言まで

利用可能電話 一般電話(ダイヤル・プッシュ)、
公衆電話、携帯電話等

防災関係機関連絡先

鱒ヶ沢町役場	0173-72-2111(代)
鱒ヶ沢消防署	0173-72-2710
鱒ヶ沢警察署	0173-72-2151
青森河川国道事務所	017-734-4521(代)
弘前国道維持出張所	0172-28-1315

五所川原保健所	0173-34-2108(代)
西北地域県民局地域整備部	0173-34-2111(代)
西北地域県民局地域整備部	0173-72-3135(代)
鱒ヶ沢道路河川事業所	
東北電力(停電・緊急時)	0120-175-366

鱒ヶ沢町防災マップ 令和3年3月

発行 鱒ヶ沢町 総務課
鱒ヶ沢町大字舞戸町字鳴戸321番地
TEL 0173-72-2111
FAX 0173-72-2374

制作・著作 株式会社ゼンリン 青森営業所
青森市長島2丁目25番1号 太陽生命青森ビル5F
TEL 017-777-6261
FAX 017-735-5758

無断で複写、転載することはご遠慮ください。著作権者に無断で本誌の全部、または一部を複製及び転載することは、著作権法により禁止されています。

「この成果品は、青森県が作成した測量成果を青森県知事の承認を得て使用したものである。(承認番号平成30年1月10日付け青林第840号)」

「この資料は、鱒ヶ沢町長の承認を得て、同町都市計画図を使用したものである。(承認番号)平成30年6月13日 30鱒建第147号」

「測量法に基づく国土地理院長承認(使用)R 2JHs 293-112号」

本文中の地図は、弊社2018年11月発行の鱒ヶ沢町住宅地図のデータをもとに作成しています。また、住宅地図による現地調査情報、編集独自の細かな情報も加えて制作しています。

作成には細心の注意を払い、編集作業を行っていますが、データ量は膨大であり、日々変化する現状と地図面が一致しない場合があります。また、目録物は見やすさを優先し、正式名称などを一部割愛して掲載しています。何卒ご了承くださいませようお願い申し上げます。